令和４年度
第５０回全日本中学校特別活動研究会・東京大会

学校教育を柱として支える特別活動の創造

～よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動～

令和４年１１月５日（土）
江戸川区立松江第五中学校

全日本中学校特別活動研究会
東京都中学校特別活動研究会

第５０回　全日本中学校特別活動研究会

東　京　大　会

大　会　主　題

学校教育を柱として支える特別活動の創造

～よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動～

第５０回　全日本中学校特別活動研究会・東京大会

大　会　要　項

１　趣　旨　　全日本中学校特別活動研究会は、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、公民として必要な資質・能力を育むことを目指した研究を推進して、５０回目の研究大会を迎えた。

今大会では、「学校教育を柱として支える特別活動の創造
～よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動～」
を大会主題とし、特別活動の在り方を追究する。

２　大会主題　　学校教育を柱として支える特別活動の創造
～よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動～

３　期　日　　令和４年１１月５日（土）

４　主　催　　全日本中学校特別活動研究会・東京都中学校特別活動研究会

５　後　援　　文部科学省　　東京都教育委員会
江戸川区教育委員会　　東京都中学校教育研究会
江戸川区立中学校教育研究会　　全日本中学校長会
東京都中学校長会　　日本特別活動学会

６　会　場　　東京都江戸川区立松江第五中学校（体育館、普通教室　他）
〒132-0024　東京都江戸川区一之江６－１８－１
都営新宿線「一之江」徒歩８分

7　時程・内容

９：００～　９：３０　受付

９：３０～１０：３０　全体会（アトラクション、祝辞、基調提案）

１０：４０～１１：３０　学級活動　授業公開

１１：３０～１２：３０　昼食

（１１：４５～１２：４５）　全国理事会【会議室】

１２：３０～１３：００　受付

１３：００～１４：１５　記念講演【会場：体育館】

講師：前日本特別活動学会会長、前学習院大学教授
日本部活動学会副会長、日本ボランティア学習協会理事
日本シティズンシップ教育学会副会長
茂来学園大日向中学校校長・日本教育実践研究所所長
長沼 豊 先生

演題：「自己肯定感を高める特別活動の役割」

１４：３０～１６：００　分科会発表・研究協議・指導講評・講演

第１分科会〈学級活動〉　【会場：３－１教室】

第２分科会〈生徒会活動〉　【会場：３－２教室】

第３分科会〈学校行事〉　【会場：３－３教室】

１６：００～１６：３０　分科会ごとにまとめ・会場片付け

8　全体会式次第

(1) 開会のことば

(2) あいさつ

第５０回全日本中学校特別活動研究会

東京大会実行委員長　滝沢　二三雄

全日本中学校特別活動研究会 会長　荒巻　淳

(3) 祝辞

東京都教職員研修センター　研修部専門教育向上課　井上　貴雅　様

江戸川区教育委員会教育長　蓮沼　千秋　様

(4) 来賓紹介

(5) 基調提案 東京都東村山市立東村山第五中学校　吉川 滋之

(6) 閉会のことば

★研究発表

分科会	発表都県	発表内容	発表者
第１分科会 学級活動 会場　３－１	東京都	「個々の意見を生かす取組により、目標達成に向けた自発的な行動を生み出す学級活動の工夫」 ～１人１台の学習者用端末を活用した話合い活動を通して～	令和３年度東京都教育研究員 小平市立上水中学校 山浦龍太郎　主任教諭 江戸川区立南葛西中学校 五十嵐　拓　教諭
第２分科会 生徒会活動 会場　３－２	東京都	「持続可能な継続性のある生徒会活動の運営」	杉並区立泉南中学校 向井　一真　教諭
第３分科会 学校行事 会場　３－３	東京都	「学級の振り返り活動を通して学級・学年・学校への所属感、連帯感につなげる学校行事」 ～１人１台の学習者用端末を活用した振り返り動画づくりを通して～	江戸川区立松江第五中学校 澤　祐介　主任教諭

<table>
<tr><th>指導助言者</th><th colspan="2">運営委員（東京都）</th></tr>
<tr><td rowspan="2">東京女子体育大学・
同短期大学教授

青 木 由美子 先生</td><td>会場責任者
司　会</td><td>武蔵村山市立小中一貫校
大南学園第四中学校
主任教諭　栗原　美絵</td></tr>
<tr><td>記　録</td><td>足立区立加賀中学校
主任教諭　鶴岡　友樹</td></tr>
<tr><td rowspan="2">文教大学教授

米 津 光 治 先生</td><td>会場責任者
司　会</td><td>葛飾区立常磐中学校
主任教諭　大橋　えり</td></tr>
<tr><td>記　録</td><td>葛飾区立小松中学校
教　諭　根本　千郷</td></tr>
<tr><td rowspan="2">元全日本中学校
特別活動研究会会長

佐々木 辰 彦 先生</td><td>会場責任者
司　会</td><td>江東区立深川第一中学校
主幹教諭　大塚　隆弘</td></tr>
<tr><td>記　録</td><td>足立区立千住青葉中学校
教　諭　入澤　亜矢子</td></tr>
</table>

目　　次

1　あいさつ

全日本中学校特別活動研究会　会長　荒巻　淳 ･････････････････････････････････ 7
第５０回全日本中学校特別活動研究会・東京大会　実行委員長　滝沢　二三雄･････ 8

2　お祝いの言葉

東京都教育庁教育監
東京都教職員研修センター　所長　藤井　大輔　様 ･････････････････････････････ 9
江戸川区教育委員会 教育長　蓮沼　千秋　様 ･････････････････････････････････ 10

3　基調提案

東京都東村山市立東村山第五中学校　吉川　滋之 ･････････････････････････････ 11

4　記念講演

茂来学園大日向中学校校長　長沼　豊　様 ･･････････････････････････････････････ 13
演題「自己肯定感を高める特別活動の役割」

5　研究発表

◇第１分科会（学級活動）
令和３年度東京都教育研究員 ･･ 16
東京都小平市立上水中学校　　主任教諭　山浦龍太郎
東京都江戸川区立南葛西中学校　　教　　諭　五十嵐　拓
「個々の意見を生かす取組により、目標達成に向けた自発的な行動を生み出す学級活動の工夫」
～１人１台の学習者用端末を活用した話合い活動を通して～

◇第２分科会（生徒会活動）
東京都杉並区立泉南中学校　　教　　諭　向井　一真･･････････････････････････ 24
「持続可能な継続性のある生徒会活動の運営」

◇第３分科会（学校行事）
東京都江戸川区立松江第五中学校　主任教諭　澤　　祐介･･････････････････････ 30
「学級の振り返り活動を通して学級・学年・学校への所属感、連帯感につなげる学校行事」
～１人１台の学習者用端末を活用した振り返り動画づくりを通して～

6　資料
・全日本中学校特別活動研究大会の歩み ･･ 48
・全日本中学校特別活動研究会会則 ･･ 50
・全日本中学校特別活動研究会理事一覧 ･･ 52
・第５０回全日本中学校特別活動研究会・東京大会実行委員一覧･･････････････････ 53

ご挨拶

全日本中学校特別活動研究会
会長　荒巻　淳
（江戸川区立松江第五中学校長）

第５０回全日本中学校特別活動研究会・東京大会が、全日本中学校特別活動研究会及び東京都中学校特別活動研究会主催により、ここ東京都江戸川区立松江第五中学校で全国各地から多くの皆様のご参加をいただいて行うことができますことを心より感謝し、御礼申し上げます。また、本大会の開催にあたり、文部科学省、東京都教育委員会、江戸川区教育委員会をはじめ、全日本中学校長会、東京都中学校長会、東京都中学校教育研究会、日本特別活動学会等の関係者の皆様には、温かいご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、現行学習指導要領が全面実施されて早３年が経とうとしています。各校では特別活動の重要な視点としての「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を踏まえ、試行錯誤しながら創意ある教育活動を展開していることと思います。『特別活動は、「集団活動」と「実践的な活動」を特質とすること』、特に『生徒の実践を前提とし、実践を助長する指導が求められるのであり、生徒の発意・発想を重視し、啓発しながら、「なすことによって学ぶ」を方法原理とすることが大切である。』と現学習指導要領解説（特別活動）で強調されています。複雑で激しい社会の中で求められる能力を育成するという視点、これはすべての教育活動において行われているものですが、とりわけ特別活動の果たす役割は大きいと言えます。

現在、終息の兆しがみえない新型コロナウイルス感染症問題、地球規模での環境問題、平和な社会の実現に向けた他国との関係づくりなど、私たちを取り巻く社会は深刻な局面とも言えます。学習指導要領総説で「学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構築するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況の変化の中で目的を再構築できるようにすることが求められている」と述べられています。まさに現在の私たちを取り巻く環境の変化につながるものであり、これからの学校教育に課された役割は非常に大きいと実感しています。特別活動の重要な視点を踏まえ、その大切さを私たち教育者が、そして大人が一人でも多く意識し、積極的に生徒を活動させることが重要と考えます。

本大会の研究主題は「学校教育を柱として支える特別活動の創造　～よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動～」です。この研究は、特別活動の今日的課題に正対しており、特別活動のこれからの方向性を示すものであります。本大会で得られたことを各都道府県・区市町村において、次世代を担う子供たちの育成に生かしていただきますとともに、特別活動のネットワークが広がっていきますことを切に祈念いたします。

結びにあたり、本大会のために発表者や指導助言者としてご協力いただきました諸先生方、準備・運営にご尽力くださいました大会実行委員の皆様、並びに、ご理解、ご支援いただきました各全国理事の皆様方のご厚情に心から感謝申し上げ、挨拶といたします。

第 50 回全日本中学校特別活動研究会・東京大会の開催にあたって

第 50 回全日本中学校特別活動研究会
東京大会実行委員長　滝沢　二三雄
（品川区立鈴ケ森中学校）

第 50 回全日本中学校特別活動研究大会を東京都において開催できますことを厚く御礼申し上げます。本大会は昭和 47 年に第 1 回大会が東京都板橋区で開催され、今回で 50 回目、東京での開催は 16 回目となります。令和元年度末から感染が始まった新型コロナウイルスの影響で令和 2 年度の大会は中止、令和 3 年度の大会はオンライン開催となりました。今年度も新型コロナウイルスの影響下ではありますが、東京で本研究大会を開催できますことは大きな喜びであります。感謝申し上げます。

今回の大会の研究主題は、「学校教育を柱として支える特別活動の創造」とし、副主題を「よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動」として、コロナ禍でますます重要性を増してきた特別活動の指導について、研究を深めることができればと考えました。

現行の学習指導要領では、特別活動においては、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」が指導上の三つの重要な視点として掲げられ、積極的に社会参画する力や話合い活動を通して合意形成や意思決定すること、役割分担して協力し合うことの重要性などが述べられています。また、感染症対策を踏まえながらではありますが、学級活動、生徒会活動、学校行事などにおける班活動等を通して、多様な集団に所属して活動することで、人間関係も多様になり、強いては子供たちに自尊感情や自己肯定感を育むのも特別活動の役割であると自負しております。

そうした中、本大会には、前日本特別活動学会会長、前学習院大学教授、茂来学園大日向中学校校長の長沼豊先生をお招きすることができました。現学習指導要領における特別活動の在り方について、特に自己肯定感を高める特別活動の役割についてご講演をいただけることは、私たち特別活動の研究者にとって大変貴重な機会であります。また、会場となります江戸川区立松江第五中学校では、学級活動の公開授業を行い、午後の分科会では、三つの分科会において 4 校の先生方から実践を発表していただくとともに、講師の先生方からご指導いただきます。これらの内容を通して、私たちが日々感じている特別活動の課題を明確にするとともに今後の特別活動の在り方について学べる機会となることを信じております。

最後になりますが、前日本特別活動学会会長、前学習院大学教授、茂来学園大日向中学校校長の長沼豊先生、分科会の青木由美子先生、米津光治先生、佐々木辰彦先生をはじめ、東京都教育委員会、江戸川区教育委員会、東京都中学校教育研究会、江戸川区立中学校教育研究会、全日本中学校長会、東京都中学校長会、日本特別活動学会、関係機関の皆様方に厚く御礼申し上げ、開催にあたっての挨拶といたします。

祝　辞

東京都教育庁教育監
東京都教職員研修センター所長
藤井　大輔

このたび、第 50 回全日本中学校特別活動研究大会が、東京都において開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

また、本研究会が永年にわたり、我が国の特別活動の充実と発展に貢献してこられましたことに、深く敬意を表します。

現在、あらゆる産業や社会生活においてデジタル化が進む時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものが「非連続的」といえるほど劇的に変化しています。このように急激に変化する時代の中で、すべての子供が将来への希望を持って自ら伸び、育ち、たくましく生き抜くことができるようにするためには、学校教育の担い手である教員が、日々学び続け、教科等の専門性を高めながら、自身の指導を改善していくことが不可欠です。そして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが重要です。

本研究大会は、「学校教育を柱として支える特別活動の創造～よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動～」と主題を定め、各分科会での研究事例発表や協議等を通じて、先生方の指導力の一層の向上を図っていくと伺っています。特別活動を通して、多様な人々と協働し、新たな価値を生み出す豊かな創造性を育む取組は、持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成の視点からも、極めて大きな意義があると考えます。

現在、東京都においては、一人１台の学習者用端末の効果的な活用をはじめとする教育のデジタル化等により、「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って自ら伸び、育つ教育」の実現を目指して、様々な取組を進めています。子供たちの個性や能力に向き合い、その成長を社会全体で支える「東京型教育モデル」の実現に向け、東京都教育委員会は、今後とも引き続き、学校及び教職員の皆様と連携を図りつつ、子供たちの輝く未来につながる教育の創造に努めてまいります。

結びに、本大会の開催に当たり、御尽力いただきました関係の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、全日本中学校特別活動研究会、東京都中学校特別活動研究会の益々の御発展を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝　　辞

江戸川区教育委員会
教育長　蓮沼　千秋

第50回全日本中学校特別活動研究会・東京大会が「学校教育を柱として支える特別活動の創造」の大会主題とし、都内はもとより、全国から多くの皆さまの参加のもと、ここ東京都江戸川区の地において開催されますことは大変喜ばしい限りです。

またこの度は、第50回という節目の大会であり、この歴史ある中学校の特別活動の振興を支えていただいております先生方には深く敬意を表すとともに、これからの社会を形成する生徒たちの基盤を育成する特別活動での学びをさらに充実させていただけるものと信じております。

さて、現在の世界情勢や経済状況、感染症拡大などは、生徒たちが将来に対して不安を感じざるをえない状況であります。学習指導要領においても「一人ひとりの生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められる。」と示されました。学校は、これらの様々な課題を解決していく資質・能力の基盤を育成していく役割があります。そして多様性を認めつつ、様々な立場の人々と協働しながら、持続可能な社会を創り上げるためにも特別活動での学びをより充実させていく必要があります。

昨年、江戸川区は内閣府から「ＳＤＧｓ未来都市」に選定されました。現在、2100年の未来においても「誰もが安心して自分らしく暮らせるまち」を目指し、共生社会「ともに生きるまち」の実現に向けて、ＳＤＧｓの取り組みを推進しています。その活動の一環として、ＳＤＧｓ中学生議会を開催し、各中学校の代表者が集い、自分たちの身の回りの社会で起きていることについてＳＤＧｓの視点で自分事として捉え、「江戸川区の未来」にむけて、「何ができる」かを考える機会をもちました。

本研究大会においても、生徒一人ひとりが、よりよい未来の形成者となるべく特別活動の一層の充実に向けた意見交流が活発になされることを期待しております。

結びになりますが、今後も全日本中学校特別活動研究会及び東京都中学校特別活動研究会のますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

基調提案
第 50 回　全日本中学校特別活動研究会・東京大会

主題

「学校教育を柱として支える特別活動の創造」
～よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動～

１　大会主題設定の趣旨

新型コロナウイルスの世界規模の拡大に伴い、全国の学校が「新しい生活様式」の名のもとに、様々な工夫を行いながらコロナ禍における教育活動を行なっている。

不安定な国際情勢、不測の事態や自然災害など、度重なる様々な問題。OECD（Education2030）では、これからの教育では、明確で目的のはっきりした目標を立てること、様々な異なる考え方をもつ人々と協働すること、まだ活用されていない機会を見つけること、重大な課題に対する複数の解決策を見出すこと等について学ぶことが決定的に重要となることを掲げている。そして、教育の目的は、将来若者が社会で働けるよう準備することだけでなく、子どもたちが、積極的に、責任感をもって社会参画する市民となるために必要なスキルを身につけられるようにしなければならないと説明しており、子どもたちがよりよい学びを得るための、いわゆるアクティブラーニングや STEAM 教育などの、自ら考えて学ぶ教育が広く実践されてきている。

「令和の日本型学校教育」（中教審答申 2021.1）では、「変化する時代におけるこれからの学校教育では、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要である」と述べている。ICT を活用した「個別最適な学び」、様々な体験活動を通した「協働的な学び」、それぞれの学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることを、2020 年代を通じて実現すべき日本型学校教育の姿として掲げている。学校教育現場では、「生きる力」を育むことを目指す中で、創造性や思考力を養う教育へと移行していくことが求められている。

学習指導要領では、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つが、特別活動における指導上の重要な視点として掲げられ、積極的に社会参画する力、話合い活動を通して集団の合意形成や個人の意思決定をすること、役割分担して協力し合うこと等の重要性が述べられている。これら三つの視点は、育成を目指す資質・能力に関わるものであると同時に、それらを育成する学習の過程においても重要な意味をもっている。

「なすことによって学ぶ」という特別活動の方法原理は不変なものであり、特別活動は、子どもたちの学校生活に潤いを与える教育活動であるとともに、学校生活における様々な集団活動を通して、個性を伸長し、社会性を育み、自己実現に向けての態度を育成してきた。これらは、特別活動における学びの強みであり、学校教育を柱として支えるものである。

コロナ禍におけるニューノーマルの時代において、学校教育の中での特別活動の果たす役割を再認識し、特別活動の不易と流行を見極めることは非常に重要なことであるといえる。

変化の激しい時代の中で適切に対応していくためには、特別活動においても、前例踏襲ではなく、常に時代の変化に合わせて主体的に学び、多様な人々と協働していくことができる柔軟性のある指導や実践が必要となってくる。

本大会では、「学校教育を柱として支える特別活動の創造～よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動～」を主題とし、令和の日本型学校教育における中学校での特別活動の果たす役割を踏まえたよりよい実践について研究を進めていく。

２　本大会で明らかにしたいこと

○　中学校における特別活動の指導の方向性、特別活動の果たす役割。
○　義務教育における特別活動の学習としての小・中学校との接続～社会へのつながりを意識した実践
○　多様な考えや価値観をもつ集団の中で、よりよい人間関係や新たな価値を育むための特色ある学級・学校づくり

３　本大会の研究課題

・自分たちの社会を自分たちの手で創りあげる学級、学校文化の醸成
・よりよい人間関係を育むための支持的風土の醸成
・学級目標を柱とした学級経営と振り返り活動
・話合い活動による集団の合意形成の工夫、個人の意思決定の工夫
・キャリア教育の要としての資質・能力の育成のための工夫
・各教科や領域との往還のための工夫
・校種を超えた連携や協働のための実践
・学習の過程において、ICT を効果的に活用した指導の工夫

◇記念講演

「自己肯定感を高める特別活動の役割」

前日本特別活動学会会長、前学習院大学教授
日本部活動学会副会長、日本ボランティア学習協会理事
日本シティズンシップ教育学会副会長
茂来学園大日向中学校校長・日本教育実践研究所所長

長沼　豊　先生

＜経　歴＞

1986 年～　学習院中等科教諭
1999 年～　学習院大学教職課程助教授
2007 年～　同大学准教授
2009 年～　同大学教授
2013 年～　同大学教育学科開設に携わる
2013 年～　同大学文学部教育学科教授
2022 年　　日本教育実践研究所を設立。
2022 年４月より現職

研　究　発　表

第１分科会（学級活動）

「個々の意見を生かす取組により、
　目標達成に向けた自発的な行動を生み出す学級活動の工夫」
～１人１台の学習者用端末を活用した話合い活動を通して～

令和３年度東京都教育研究員

東京都小平市立上水中学校　　山浦龍太郎　主任教諭
東京都江戸川区立南葛西中学校　　五十嵐　拓　教　　諭

第２分科会（生徒会活動）

「持続可能な継続性のある生徒会活動の運営」

東京都杉並区立泉南中学校　　向井　一真　教　　諭

第３分科会（学校行事）

「学級の振り返り活動を通して学級・学年・学校への
所属感、連帯感につなげる学校行事」
～学習者用端末を活用した振り返り動画づくりを通して～

東京都江戸川区立松江第五中学校　　澤　祐介　主任教諭

第１分科会　学級活動

個々の意見を生かす取組により、

目標達成に向けた自発的な行動を生み出す学級活動の工夫

～１人１台の学習者用端末を活用した話合い活動を通して～

東京都小平市立上水中学校　主任教諭　山浦龍太郎
東京都江戸川区立南葛西中学校　教諭　五十嵐　拓

１　主題設定の理由

中学校学習指導要領特別活動の目標には、「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決すること」を通して、生徒の資質・能力を育成することが示されている。その資質・能力は、中学校学習指導要領解説特別活動編において「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点で整理され、それらを育む学習過程も重要な意味をもつ。

本部会では課題設定に当たり、特別活動の資質・能力の実態を把握するため、まず、これら三つの視点を踏まえたアンケートを作成し、7月に所属校生徒を対象に実施した。アンケートの結果、「学級の課題に意識を向け、その解決のために、話合い活動に参加することで主体的に解決しようとすること」が苦手な生徒が多いということが分かった。

この項目は、三つの視点のうち、「社会参画」に係る内容である。「社会参画」については、学習指導要領の前文に「社会の創り手」の文言が明記されたことを踏まえ、「社会参画」の視点を意識した指導が重要であると考えた。先のアンケート結果を基に、生徒の実態を分析すると、当該学校の生徒は社会参画意識が低いということが明らかになった。

以上のことから、研究主題は社会参画意識を高めることに視点を当てるものとして設定することとした。このことについて中学校学習指導要領解説特別活動編「社会参画」の視点では、「社会参画のために必要な資質・能力は、集団の中において、自発的、自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれるものと考えられる」と示されており、社会参画意識を高めるには、学級活動において、生徒が自発的な活動を通して、集団に関与しながら主体的に課題を解決することができるような指導の工夫が必要であると考えた。そのため、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようする「自発的、自治的な活動」の「自発的」という部分に着目して研究を行うこととした。また、「自発的」な活動を生み出す素地として「自己有用感」の涵養が必要であると考えた。なぜなら、人の役に立った、人から感謝されたという経験の総体が活動意欲に昇華し、自発的な活動を生み出すと考えたからである。そこで、本研究においては、特別活動の「学級活動」における「学級や学校における生活づくりへの参画」において、人の役に立った、人から感謝されたという「自己有用感」を育み、自発的に学級の目標を達成していく意欲を高める指導の工夫により話合い活動を実施することで、個々の社会参画意識の醸成を目指した。さらに、１人１台の学習用端末を活用した個々の意見を生かす話合い活動が有効であると考え、本研究主題を設定した。

２　研究のねらい

本研究のねらいは、研究仮説の実証にある。研究仮説は、「学級活動において、全員の考えや実践を１人１台の学習者用端末の活用によって共有し、誰もが話合い活動に関わることで、自己有用感や目標達成への意欲が向上し、個々の社会参画意識を高めることができるだろう」とした。「自発的な話合い活動を実施するための事前活動を含めた指導計画の工夫」と「集団への参画意識を高めるための１人１台の学習者用端末の活用の工夫」を研究の視点として整理し、検証授業を中心とした学習過程のモデルに組み込み研究仮説の実証のために検証授業を３回行った。

３　研究の内容

（１）文献資料による研究

○　中学校学習指導要領　特別活動（平成 29 年３月）

○　中学校学習指導要領解説　特別活動編（平成 29 年７月）

○　平成 31 年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）

○　「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校　特別活動】（国立教育政策研究所　令和２年６月）

（２）指導方法の工夫

①事前計画を含めた指導計画の工夫

「話合い活動の手引き」やワークシートを作成し、事前に学級委員や班長に指導することで、円滑な合意形成を図ろうとした。また、授業のみならず学級活動全体の見通しをもたせ、授業中における活動の方法や学級内における日々の振り返りの方法等を確認することで、自信をもって活動できるようにした。

②１人１台の学習者用端末の活用の工夫

１人１台の学習者用端末の活用によって、即時的に全員の意見を共有し、少数意見も取り上げられる工夫をした。また、発言が苦手な生徒でも意見を発信し、集団へ関与できるように工夫した。

（３）検証授業

①　題材「学級目標達成に向けた検証と行動目標の作成」

②　題材設定の理由

９月～11 月の年度の折り返しの時期に、生徒が自身の所属する学級において、学級目標の達成に向け、課題の発見や解決のための自発的な話合い活動を特別活動の授業内で行うことを通して、「社会参画」意識の向上を図ることを目指した。

③　学習過程のモデル図

①事前活動 →	②検証授業 →	③個人目標達成へ向けての行動 →	目標の達成
・学級委員や班長による学級課題の把握	・学級全体における合意形成、行動目標の設定	・個人目標を達成するための行動の実践と振り返り	自己有用感、目標達成意欲の向上 ↓ 社会参画意識が高まる
・話合い活動における合意形成の図り方の共有	・１人１台の学習者用端末を活用した生徒全員の意見の共有	・個々の活動実践の共有 ・振り返りの実施	

④　指導計画

時期	議題	活動内容
10月	◇検証授業【第１回】「学級の課題の解決策を話し合い、学級目標を実現するための個人目標を決めよう」	・学級の課題の解決策を考え、他者との意見交換を通して合意形成を図る。
11月	◇検証授業【第２回】「学級目標を達成するための行動目標をリニューアルしよう」	・新しい行動目標を検討する中で、異なる意見との共通点や相違点を見いだし、合意形成を図る。
11月	◇検証授業【第３回】「学級の課題の解決策を話し合い、課題解決のための個人目標を決めよう」	・学級の課題に対する解決策を話し合い、個人目標を設定し、主体的に学級生活を見直し、よりよくしていく。

（４）検証授業

【第１回】

ア　本時の活動のテーマ

「学級の課題の解決策を話し合い、学級目標を実現するための個人目標を決めよう」

（内容項目：学級活動（１）学級や学校における生活づくりへの参画　ア）

イ　本時のねらい

・学級の課題の解決策を基に目標を実現するための個人目標を決定し、主体的に学級生活をよりよくしようとする態度を育てる。

・１人１台の学習者用端末を活用し、学級活動に意欲的に取り組む態度を育てる。

ウ　本時の展開

	生徒の活動	○目指す生徒の姿〈評価方法〉 ・指導上の留意点
導入 ５分	１　本時の活動について確認する。 ・学級委員の説明を聞き、題材設定の目的や本時の進め方について確認する。	・本時のねらいを黒板に掲示し、確実に捉えさせる。
展開 35 分	２　振り返りアンケートを分類・分析する ・事前アンケートの結果を基に班長会で考えた学級の課題を説明し、提示する。 ３　学級課題を各班に一つ提示し、解決策を考える。 学級の課題　例） 意見を出しやすい雰囲気をつくるためには ・個人で考えた解決策を、情報共有アプリケーションに入力する。 ・各班は、班の意見を集約し解決策を作成する。≪合意形成≫ ４　作成した解決策を班長が全体に向けて発表する。 ５　解決策を基に学級目標を実現するために個人で実践する目標を決める。 ・学級目標を実現するために２学期を通して取り組むことを決定する。 ・目標を情報共有アプリケーションに投稿し、意思表示をする。 ６　学級全員の目標を情報共有アプリケーション上で確認し、反応をする。	・アンケートの結果を黒板に投影し、学級委員から説明させる。 ・意見集約の際には「合意形成お助けシート」を活用し、多数決ではなく、より多くの生徒の意見を用いて解決策を作成することを意識させる。 ○合意形成の手順を理解し、実行して、解決策を決定することができる。 【知識・技能】〈観察・情報共有アプリケーション〉 ・情報共有アプリケーション上で策定した解決策を参考にして目標を考えることを促す。 ・共感したり、応援したいと思えたりした意見に評価を加えることを促す。
まとめ 10 分	７　学級を代表して学級委員が「学級目標を実現するために２学期を通して取り組むこと」を発表する。 ８　情報共有アプリケーション上の、日直日誌において日々の振り返りを行うことを理解する。 ９　ワークシートを記入する。	○取組の意義を理解し、前向きに学級目標を実現していこうとしている。 【主体的態度】〈観察・ワークシート〉

【第２回】

ア　本時の活動のテーマ

「学級目標を達成するための行動目標をリニューアルしよう」

（内容項目：学級活動（１）学級や学校にける生活づくりへの参画　ア）

イ　本時のねらい

話合いの中で、自分の考えを表明するとともに、異なる意見との共通点や、相違点を見いだし、合意形成を図ろうとする態度を育てる。

ウ　本時の展開

	生徒の活動	○目指す生徒の姿〈評価方法〉 ・指導上の留意点
導入 ３分	１　本時の議題と活動の流れを確認する。 ２　学級委員から説明を聞き、今後の学級の在り方についての「思い」を聞く。	・本時の議題と活動の流れを説明し、授業の見通しをもたせる。
展開 40 分	３　学級目標を達成するための行動目標の中で変更したい項目を個人で挙げる。 ４　学級目標を達成するための新たな行動目標を個人で考える。 ５　班での役割を決める。 ６　個人の意見で共通する部分を班で話し合い、共通項目にラベリングをする。 ７　他の班の意見も参考にして、班の案を再検討し、班の案を決定する。 ８　各班の案を発表する。 ９　最もよいと思う案に投票する。また、その理由も考える。 10　学級全員の意見を知る。 11　少数派の意見を聞く。	・１人１台の学習者用端末のアンケートアプリケーションで投票させる。 ・情報共有アプリケーションで新たな行動目標をできるだけ多く書かせる。 ・司会（班長）、記入係、発表係を話し合って決めるように指示する。 ・個人で他の班の意見を読む時間を設ける。 ○話合いの中で、自分の考えを表明するとともに、異なる意見との共通点や、相違点を見いだし、合意形成を図ろうとしている。 【思考・判断・表現】〈観察・ワークシート〉 ・記入係に対し、まとまった意見をミニホワイトボードに記入し、黒板に貼るように指示する。 ・発表係に対し、教卓の前で発表するように指示する。その際、グループでの話合いの経緯についても言及するように指示する。 ・アンケートアプリケーションで投票させる。 ・一人１台の学習者用端末を用い、全員の意見を提示し、見る時間を設ける。 ・少数意見を出した生徒を指名し、考えた理由を発表させる。 ・少数派の意見も参考に学級委員に新しい行動目標を考えさせるとともに、後日、考えた行動目標と、その理由を学級全員に共有するよう指示する。また、最終決定を学級委員に

		委ねることについて学級全員の合意を得る。
まとめ 7分	12　学級委員から本時の活動の感想を聞く。 13　感想をワークシートに記入する。 14　担任からの本時の活動に対する思いを聞く。	・学級委員に本時の感想を発表させる。 ・学級委員の感想を聞いて思ったことや考えたことを振り返り、自分自身の感想を書くように指示する。 ・生徒の思いを大切にしながら、目指す生徒の姿について意識することができるように話す。

【第３回】

ア　本時の活動のテーマ

「学級の課題の解決策を話し合い、課題解決のための個人目標を決めよう」

（内容項目：学級活動（１）学級や学校における生活づくりへの参画　ア）

イ　本時のねらい

・学級の課題の解決策をもとに、学級目標を実現するための個人目標を決定し、主体的に学級生活をよりよくしようとする態度を育てる。

・１人１台の学習者用端末を活用し、学級活動に意欲的に取り組む態度を育てる。

・多様な意見を踏まえ合意形成を図る姿勢を育む。

ウ　本時の展開

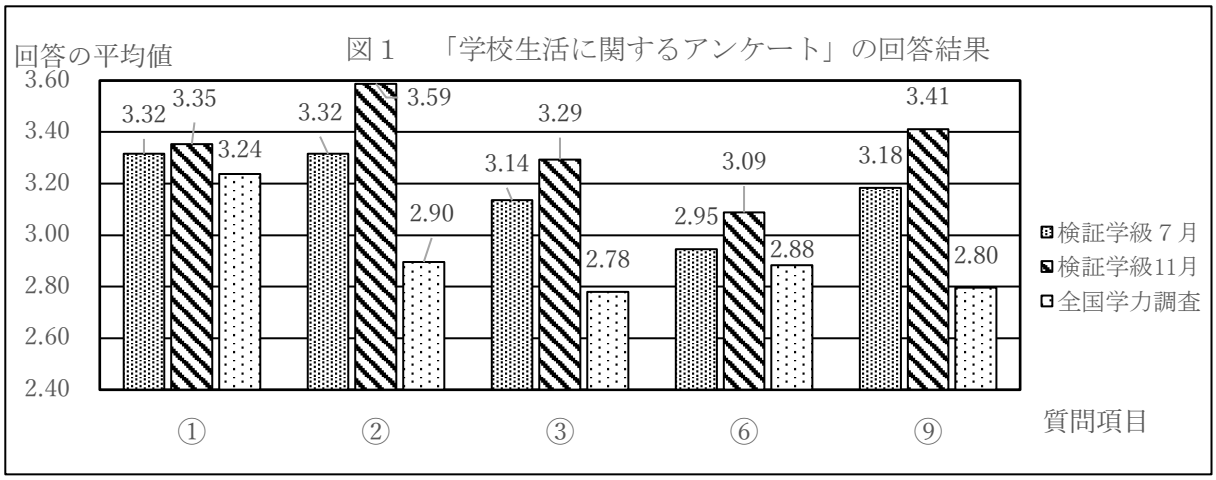
	生徒の活動	○目指す生徒の姿〔評価の方法〕 ・指導上の留意点
導入 5分	1　本時の活動について確認する。 ・題材設定の目的や本時の進め方について知る。 2　前時の振り返りを行う。 ・各班長が前時に設定した学級の課題を確認し、本時の話し合う内容を確認する。	・本時の流れと前時の内容をスクリーンに投影する。
展開 35分	3　班で意見を交流する。 ・前時に出した課題と解決案に対して具体的な行動目標になるよう班で意見を出す。 4　各班で合意形成して具体的な行動目標を決定する。 予想される行動目標の例 ・人が不快にならない言葉を遣う。 ・授業の準備をしてから休み時間を過ごす。 5　各班長より行動目標を発表する。	・司会と書記の役割を分担させ、話合い活動が円滑に進むように指導する。 ・班の全員の意見を用いて合意形成するように促す。 ○合意形成お助けシートを活用し、合意形成を行う手順を理解し、実行して、解決策を決定することができる。 【知識・技能】〈観察・ワークシート〉 ・机間指導により、積極的に意見するように促す。 ・１人１台の学習者用端末を用いて、各端末に班ごとに行動目標を投影する。
まとめ 10分	6　個人の目標を設定する。 ・各班の意見を聞いた上で、掲示用の個人目標を記入し提出する。	・班ごとの解決策を参考にして目標を考えるよう促す。

	7　担任の話を聞く。 8　個人で振り返りを行う。	○取組の意義を理解し、前向きに個人目標を実現していこうとしている。 【主体的態度】〈観察・ワークシート〉 ・本時の活動全体を振り返り、感想を記入するように言葉掛けをする。

（５）成果検証

平成 25 年度から平成 31 年度までの東京都教育研究員が開発した「学級活動におけるアンケート」を検証授業の前後に実施し、比較をし、成果を検証した。

①　社会参画意識に関する個人の意識の変容



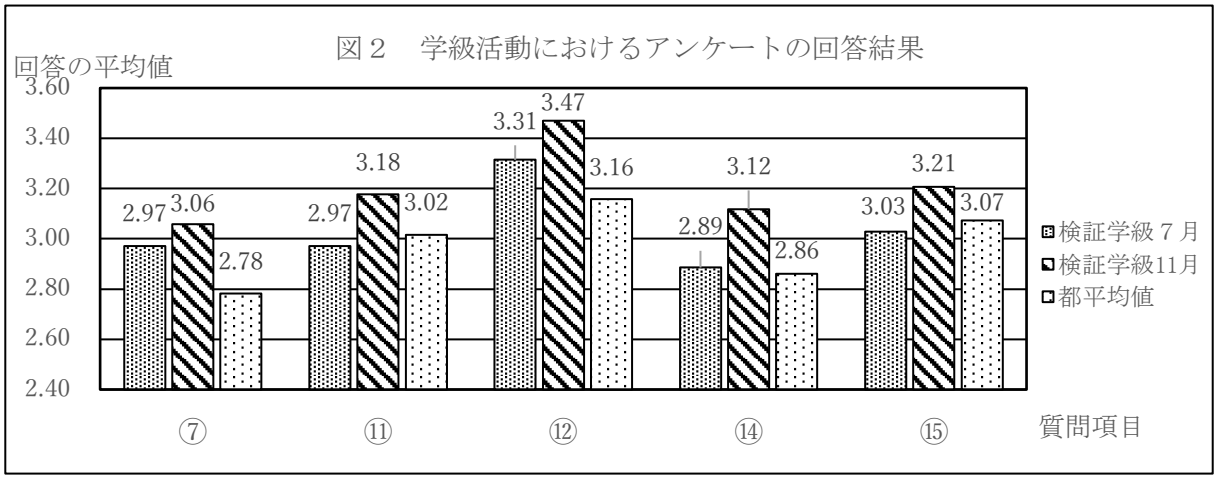


図１より「学校生活に関するアンケート」の質問項目において「②　あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う。」、「③　学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。」、「⑨　話合い活動で、よい学級や人間関係をつくるため、学級としての目標や方法を決め、実行している。」の３項目において検証授業を行った学級の回答を比較すると、11 月のアンケート結果の平均値が７月のアンケート結果の平均値を 0.04～0.27 ポイント上回っていた。また、上記の３項目について検証授業を行った学級の 11 月のアンケート結果の平均値が、平成 31 年度全国学力・学習状況調査の回答結果の平均値と比べて 0.51～0.69 ポイント上回っていた。

図２より「学級活動におけるアンケート」の質問項目において、「⑦　私は友達や学級のためになることは、自分で見付けて実行している。」、「⑪　私は学級のよいところと課題を理解している。」、「⑫　私は学級の課題解決や目標達成に向けて行動したいと思う。」、「⑭　私は学級の課題解決や目標達成のために行動している。」、「⑮　私は学級の課題解決や目標達成のために仲間と協力して取り組んでいる。」の「社会参画」に関する５項目において、検証授業を行った学級で 11 月のアンケート結果の平均値が、７月のアンケート結果の平均値より 0.09～0.23 ポイント上回っていた。検証授業を行った学級のアンケートの 11 月の結果と平成 31 年度に東京都教育研究員が行ったアンケートの結果を比較すると、上記の５項目において、検証授業を行った学級の平均値の方が平成 31 年度に東京都教育研究員が行ったアンケート結果の平均値より 0.14～0.31 ポイント上回る結果となった。

これらの結果から、事前活動や検証授業を経て、生徒がより良い学級のために学級のよいところに気付くことができるとともに、学級内の課題についても敏感に共有することができる生徒が増えたことが分かる。また、検証授業を通して、主体的に話合い活動に参加し、解決しようとすることに抵抗を感じている生徒が減り、学級目標の達成や学級の課題解決に向かう行動がとれる生徒が増えた。１人１台の学習者用端末を用いた話合い活動を行うことで、生徒全員が学級の目標や課題に対する意見を出しやすくすることができたとともに、個々の意見の共有が容易になったことで、一人一人の考えが深まり、生徒自身が取り組むべき内容が明確化され、学級のために自発的に行動できる生徒が増えたことにつながった。さらには、検証授業による取組が生徒の所属集団における課題解決に意欲的に参画する意識を高めたといえる。

②　１人１台の学習者用端末を活用した個々の意見を生かす取組の工夫

検証授業を行った学級で 11 月に行ったアンケート結果では、図１の「学校生活に関するアンケート」の「①　学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。」、「⑥　難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。」の回答の平均値が、７月の回答の平均値や平成 31 年度に東京都教育研究員が行ったアンケート結果の回答の平均値と比べ、0.03～0.21 ポイント上回る結果となった。検証授業で合意形成の過程で出た少数意見にも焦点を当てる場面を意図的に設けたため、意見することが苦手な生徒にとっても話合い活動において自分の意見が取り上げられる場面が増え、自己有用感の向上につながった。また、自分の意見が、全体に共有される中で、他者の考えに影響を与えたことを実感することにより、話合い活動や学級集団に対する参画意識を高めることができたと考えられる。

４　成果

（１）　社会参画意識を高める話合い活動の進め方ついて

本研究では、自発的な行動を生み出す学級活動を通して社会参画意識を高めることを目指した実践を行った。研究を始めるに当たり社会参画意識を高める学級活動には生徒全員が当事者意識をもって関わることができる話合い活動の工夫が必須であると考えた。そのため、班での話合い活動において司会や記録などの役割を設定することで生徒全員が話合い活動に関われる指導計画の立案や、事前活動を設定し、話合い活動の目的及び必要性の説明と合意形成の図り方についての確認を行った。

話合い活動の場面では、最初に生徒が個人の意見を述べた上で、班や学級全体で話

合い活動を実施し合意形成を図るようにした。そして、最後に生徒個人が課題に対してどう向き合っていくか再考するという一連の活動の流れを設定し検証授業を行い、有効性を検証した。その結果、課題解決につながる話合い活動が実現し、自分から積極的に友達や学級のために行動することができる生徒や学級の課題の解決のために行動することができる生徒が増えていくなど、一定の効果があった。また、話合い活動によって自分たちで決めた目標に向けて努力することが広い意味での社会参画につながった。

（２）　１人１台の学習者用端末による意見共有について

生徒は合意形成を図る上で、安易に多数決を行う傾向がある。少数意見の中には、個々の意識として内在しているものの表出しにくい考えや、目標設定や課題解決のための重要な視点が含まれていることもあるため、多様な意見を生かし、よりよい目標や解決策が考えられるよう少数意見にも焦点を当てる指導を行った。その工夫として行ったのが、１人１台の学習者用端末の即時性を生かした実践である。

話合い活動の途中で、アンケート機能の活用によって出た意見について、多数意見だけでなく少数意見についても取り上げるなど、意図的に着目させる指導の工夫や、１人１台の学習者用端末を活用することで､これまで全体の場で積極的に発言できず、自分の意見に自信がもてなかった生徒たちの意見も積極的に取り上げ発信させる工夫により､多様な意見を生かした話合い活動を実践することができた｡この指導により、互いの意見のよさに気付き、相手の意見や考えを認めることができる生徒の育成や、話合い活動に主体的に関わることによる自己有用感の向上につながった。

５　課題

（１）　目標達成に向けての生徒の自発的な行動を生み出す指導実践の継続

本研究は、実践の積み重ねとしては短期的な取組である。生徒の社会参画の基盤となる資質・能力を育成するには、発達段階に応じた指導計画の立案や３年間の見通しを立て､系統性をもたせた上で継続的な指導を行う必要がある｡また､校内全体の様々な集団における活動においても、自発的、自治的な実践により、社会参画を促す指導が必要である。これらの活動に関わることが、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことにもつながっていく。

（２）　１人１台の学習者用端末の活用の工夫

本研究では、学級生徒全員の意見や考えの共有とともに、合意形成における、少数の意見を生かす工夫として、１人１台の学習者用端末を活用した。検証授業を実践する中では、話合い活動の議題からかけ離れた内容や極端な内容の少数意見が出た際、合意形成から遠のいてしまうといった場面も見られた。また、１人１台の学習者用端末を用いれば気軽に意見を表明できる利点もあるが、情報モラルの視点における不適切な発言も容易にできてしまう難点もある。社会参画意識と同様に、生徒の情報モラルを高める教育も同時に進めることが１人１台の学習者用端末を効果的に活用する特別活動には必要である。

第２分科会　生徒会活動

「持続可能な継続性のある生徒会活動の運営」

東京都杉並区立泉南中学校　教諭　向井　一真

１　主題設定の理由

本校は全学年で７クラスの小規模の中学校である。昨年度より、「持続可能な継続性のある生徒会活動の運営について」をテーマに研究を始めた。理由として、今後担当者が毎年少しずつ交代する可能性があることや、生徒会活動の取組は増える一方であるのに「○○活動」という名前のものだけ残りやすく、生徒に本来の活動の意義や、目的などがなかなか浸透していないことがある。

そこで話合いを重ね、どのようにしたら生徒が三年間継続して活動することができるのかを協議し、泉南中学校独自の活動である「泉南しぐさ」を原点にした研究を進めてきた。

２　実践の概要

（１）生徒会の１年間の活動

９月　【生徒会役員選挙】

・会長１人、副会長１人、役員２人、各専門委員会長５人、計９人を選挙活動（朝の選挙活動、朝の演説、ポスターなど）を通して、投票で選出する。一昨年から新型コロナウイルスの影響でリモート放送にて実施。本年度は、体育館で実施した。

９月　【草刈りボランティア】

・全学年対象で生徒会新聞にて参加者を募り、校庭の草刈りを行う。
昨年度も今年度も４０人程度参加し、校内環境を整備する気持ちを養った。

１０月【後期がスタート】

・後期は新しい専門委員会を発足し、今後の活動方針案や活動内容を決めた。

１１月【生徒総会】

・各専門委員会長が後期の活動に対して方針を伝え、全校で検討する。
一昨年度よりリモート放送にし、一学年だけ体育館で聞く形を取っている。

１２月【東京都生徒会長サミット】

・昨年は、リモートで行われた東京都生徒会長サミットで、全体発表を行った。東京都の７０校を超える中学校の生徒会役員が集まり、各校生徒会で実施している活動について意見交換をした。

２月【小中連携交流会】
・来年度入学する小学６年生に対して、中学校とはどのようなものかなどを伝える会である。泉南しぐさのことについても、劇などにして伝えた。

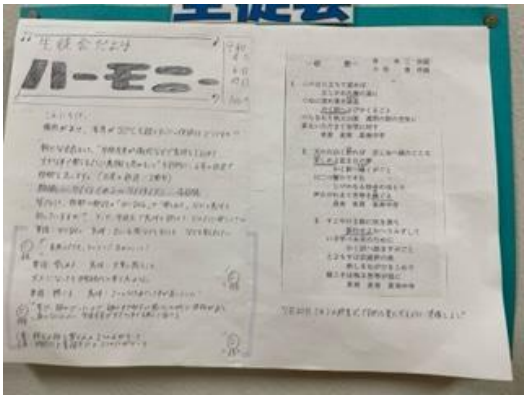
３月【卒業生の向けた送る動画の作成】
・中央委員会主催で卒業する３年生に向けて、各クラス２分程度の動画を作成し、３年生が最後の給食の時間にＩＣＴ機器を使用し、上映した。

４月【朝の挨拶運動】
・中央委員会のメンバーと生徒会新聞でボランティアを募り、学校に活気を与えることと新入生に挨拶の意義を伝える目的で実施した。今年度は、昇降口の周りだけではなく、各階の廊下に担当の生徒を配置して行った。

６月【学校支援地域本部との話合い】
・学校支援地域本部に意見を求める活動をした。学校にとってこれからどのような活動していくとよいものができるかなど活発に意見を出し合い、学校支援地域本部との交流を深めた。

７月【校歌を大きな声で歌おうの取り組み】
・今年度からの取組です。新型コロナウイルスの影響を受けた生徒のみが在籍する学校となり、校歌を歌う習慣がなくなってしまった。２年ぶりに歌うことになった始業式では、全く歌声が聞こえなかった。これをきっかけに生徒会主催で給食時間に校歌を流し、生徒会新聞で歌詞の意味などを伝える活動をした。

【生徒会新聞「ハーモニー」】

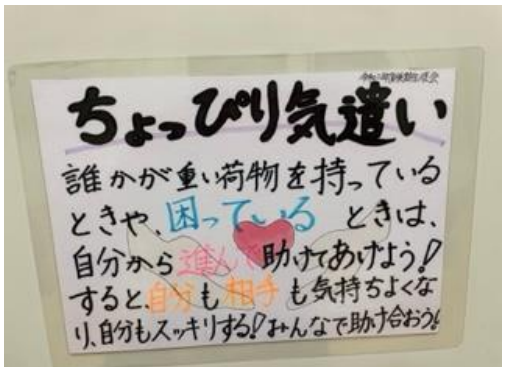


・不定期で発行している。
各活動の内容や結果報告などを書き、時にはアンケートを実施した。
各クラスの掲示板にも掲示している。

（２）泉南しぐさの取組について

①泉南しぐさとは

生活の中で自分の行動を見つめなおし、互いが気持ちよく過ごすために必要な心のあり方をまとめたもの



・目標

第一に、「理解者であること」
第二に、「実践者であること」
第三に、「伝導者であること」

この三つを目標にかかげ、活動しています。

②泉南しぐさの始まりとこれまでの取組について

道徳授業地区公開講座にて講師の方のお話を聞き、学校全体で泉南しぐさ創作を行い、代表生徒によるパフォーマンスを経て完成した。２０１３年には、数が少なかった泉南しぐさに対して新たに「新泉南しぐさ」を創作し、ファイル、DVD を作成して PR 活動に励んだ。そして今日に至る。

活動の一つとして泉南しぐさ総選挙の中で選ばれたのが以下の通りである。

泉南しぐさの代表例

・笑顔しぐさ
いつでも笑顔で対応しよう。

・こだましぐさ
返事をして話を聞いてあげよう。

・助っ人しぐさ
困っている人がいたら手伝ってあげよう。

・ドアしぐさ
ドアの前で困っていたら助けよう。

・分前しぐさ
５分前行動をしよう。

・すみませんしぐさ
謝ることを当たり前にしよう。

③昨年度～今年度泉南しぐさの取組について

昨年度より、研究テーマの通り、もう一度「泉南しぐさ」を活発にし、生徒が意識をしながら学校生活が送れるようにしようと教員同士で話し合い、生徒とともに企画を立ち上げてきた。

ア　新ポスター設置、しおりの配布

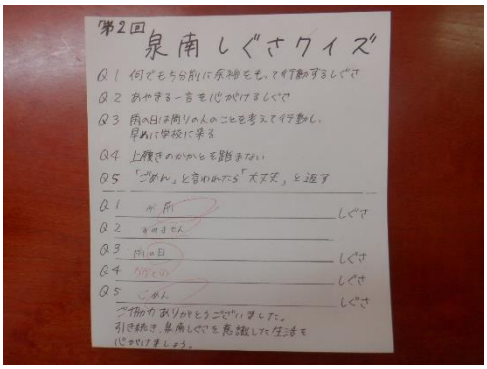
これは、２０１０年から続くポスターを一新し、生徒に広めていった活動である。教室の前や、各教室に張り出し、生徒会新聞の中でアンケートを実施し、意識を高めることができたのかを確認していった。

それと同時に図書館司書と連携した企画を行い、本を借りると同時に、泉南しぐさのしおりを生徒に配布する活動も併せて行った。

イ　生徒会による動画作成、泉南しぐさクイズ

生徒会主催で泉南しぐさの一場面を切り取り、演技をし、生徒朝礼で見せる活動を行った。生徒たちの演技の中で、どのような泉南しぐさが日ごろから取り組みやすいのかを考えさせ、その後、生徒会新聞を使用し、泉南しぐさクイズとして、たくさんの事例を含めて出題した。成果は、もともと泉南しぐさに興味がなかなかもてない生徒に対して、効果があった。伝統を残すという思いもあるが、１０年以上前からある学校の習慣をもう一度取り戻すことを意識して進めていった。

泉南しぐさの「すみませんしぐさ」「分前しぐさ」を代表として意識調査を行ったところ１年生では、クイズ後は７０％、２年生は２７％、３年生では４３％と改善が見られた。



ウ　道徳地区公開講座

道徳の授業として、泉南しぐさが始まった時の教員を招き、なぜ泉南しぐさを始めたのか、どのようなことから意識して作成していたのか、生徒がどのような思いで活動していたのかを伝えてもらった。

（３）小中連携

昨年度より小中連携として、生徒会・中央委員会の生徒が近隣の小学校に行き、来年度入学してくる小学生の疑問に回答するという企画を行った。昨年度は、新型コロナウイルスの影響で実施方法が対面ではなくリモートとなってしまったが、小学校の児童や教師から高い評判を得た。

まず生徒たちにどのようなことを小学生に伝えたいかということを聞いたところ、「泉南しぐさ」のことが小学校でもできるように伝えていきたいということだったので、３年計画で同じことを伝えていこうと決定した。

例えば、あいさつしぐさにもたくさんの意味をもたせた。

あいさつは、する方もされる方も気持ちがいいから

だれにでもげんきよくあいさつする（小学１～３年生）

自分から進んであいさつする（小学４～６年生）

堂々と積極的にあいさつする（中学生）

このような、小学生のころから継続してできることを伝えていった。

さらに、前述したような、生徒が演技をし、中学校とはどのようなところなのかということも伝えた。小学生は、泉南中学校とはどのようなところを理解することができ、安心して入学することができる成果があった。中学生は、小学生に披露することで、社会に出てからのプレゼンテーション能力向上と、何を意識して伝えなければいけないのか、どこに重点を置いて伝えなければいけないのかを考えることができた。

３　成果と課題

本校では、その時のみの取組になりがちな生徒会活動が目立ち、継続性、特に３年間継続できる活動が難しいものになっている。そんな中、本校の伝統である「泉南しぐさ」を活用しつつ、新しい取組にも挑戦することができた。そして昨年度の東京都生徒会長サミットでその取組を発表できたことは生徒たちにとってとても貴重な体験になったと考える。自校にしかない独自の活動の価値に気付けたことは、大きな自信となった。

課題としては、少人数の生徒会で学校全体の意識を広めていく難しさがある。そして、教員の異動に伴い生徒会の活動内容が新しい担当者の影響を受けて変わってしまうこともある。しかし、３年計画で生徒が成長していくことを考えると、継続して活動させていくことは必要不可欠である。今後も学校全体で「泉南しぐさ」を校内から地域へと広める意識を大切にしたい。

４　研究のまとめ

これらの活動を通して、生徒会役員の気持ちも大きく変わり、生徒自身も泉南中生の「自信」と「誇り」をもち、大きく成長したと考える。

泉南しぐさは近隣の小学校や東京都内の中学校にも伝えることができ、知名度を上げることができた。また、これから中学校に進学してくる小学生にも思いを伝えることができた。そのような機会を今後も設け、区内だけではなく、多方面に広めていくことも視野に入れて取り組んでいきたい。

第３分科会　学校行事

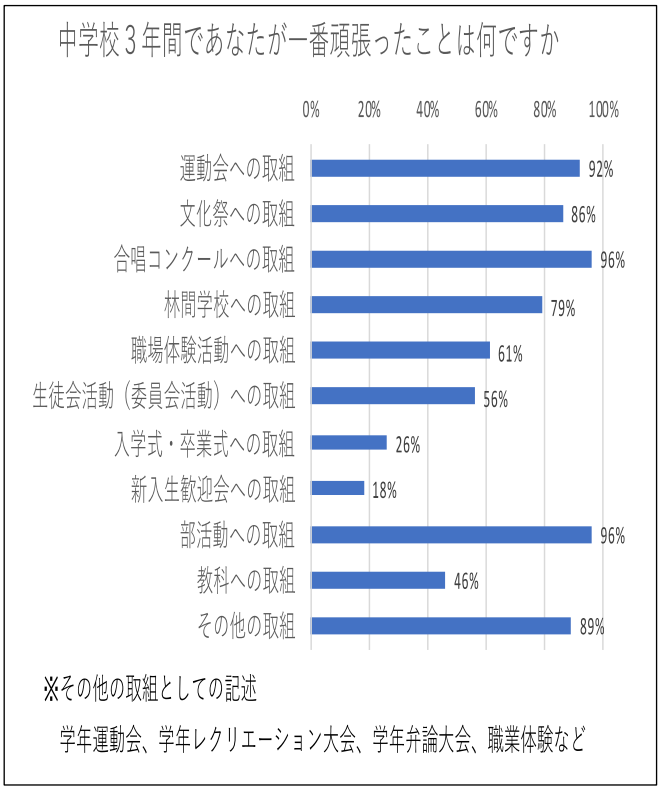
学級の振り返り活動を通して学級・学年・学校への所属感、連帯感につなげる学校行事
～１人１台の学習者用端末を活用した振り返り動画づくりを通して～

東京都江戸川区立松江第五中学校　主任教諭　澤　祐介

１　主題設定の理由

令和４年度、本校が目指す学校像は「互いのよさを認め合い、誰もが輝ける学校～生徒も教職員も保護者も地域も～」である。特に「豊かな人間性の育成」と「個性の伸長」を重点目標とし、一貫して特別活動の三つの柱である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を意図した教育活動を展開している。

しかし、一方で新型コロナウイルス感染症対策による教育活動の制限が余儀なくされ、学校教育の柱として欠かせない「学校行事」※資料１の中止や延期、取組方法の工夫が求められた。特別活動は「様々な集団活動」「課題解決のための話合い、合意形成、意思決定までの流れ」「自主的、実践的な取組」を特質としている。そのため学校教育の中で特別活動は大きなダメージを受けることになった。



＊資料１　生徒意識調査（令和３年度 ３年生 172 名に実施）

時を同じくして文部科学省の GIGA スクール構想が全国の学校で始まり、これまで経験をしたことのない指導方法を試行錯誤しながらも実践する教職員が増えていった。そこで特別活動の「様々な集団活動」「課題解決のための話合い、合意形成、意思決定までの流れ」「自主的、実践的な取組」という特質と１人１台の学習者用端末を融合させたコロナ禍での新しい学校行事を創造する必要性に迫られた。令和３年度から学習者用端末を活用した活動を細々と実践してきた生徒や教員の存在、そしてＩＣＴを駆使して卒業式や周年行事を成功させた実績を踏まえ、今年度は年間を通じて学級の「振り返り」「その発信」さらには「相互に共有」という３本の柱を掲げ、学級文化に焦点をあてた取組を計画した。年度末には全校で共有する学校行事を計画した。

２　研究のねらい

（１）学級目標に対する振り返り活動を通して目標達成への主体的な行動につなげる。
（２）１人１台の学習者用端末を活用した集団活動、課題解決のための話合い活動、合意形成、意思決定、発表までの流れに主体的に取り組み、自己の向上への意欲につなげる。
（３）学級への所属感、連帯感を深めるとともに学年・学校として次の成長につなげる。
（４）自校の様々な学級文化（目標と取組）に触れ、そのよさに気付き、認め合ったり、新たな課題を見いだしたりすることで学校のよりよい文化づくりにつなげる。

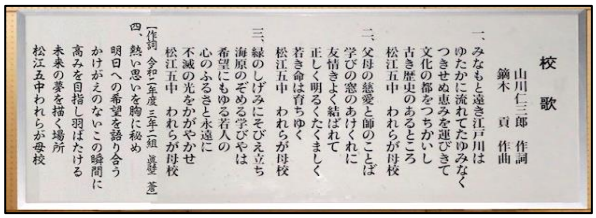
３　研究に至るこれまでの経緯

（１）前年度までの実践

さまざまな活動場面で「話合い」や「交流」が十分にできない現状を打開したいと考え、学校ホームページから生徒、保護者、地域のその現状を発信した。そのことが功を奏したのか、生徒、保護者、そして地域の方からの提案が寄せられ、特色ある学校文化づくり（大作戦シリーズ）がスタートすることになった。

＝教科・領域の垣根を越えた取組の紹介＝

ア「校歌の歌詞４番を作ろう大作戦」の取組
※生徒会、保護者・地域、国語科
音楽科、行事委員会との連携
（Web 提案、募集、オンライン投票
生徒会本部で選考）



資料２　体育館正面壁面パネルに完成作品掲示

イ「松五体操を創作しよう大作戦」の取組
※学級委員会（実行委員会）、保健体育科
行事委員会との連携
（学級内小グループ作品→学年代表決定、
全体集会にて学校代表を生徒が選考）

資料３　体育館での選考会の様子

ウ「周年の記念ロゴマークを考えよう大作戦」の取組
※生徒会、保護者・地域、美術科
行事委員会との連携
（Web 提案、作品依頼、オンライン投票
生徒会本部で選考）

資料４　周年記念としてのロゴマーク入りオルゴール

エ「地域の方にお便りを配達しよう大作戦」の取組
※生徒会、保護者・地域
校内特別委員会との連携
（Web 提案、募集、委員会で選考）

資料５　月に１回の配達している生徒の様子

オ「校歌三部合唱を創り
卒業式で発表しょう大作戦」の取組
※生徒会（学級委員会）、保護者、地域
音楽科、国語科、行事委員会との連携
（話合い活動、合意形成、意思決定、発表）

資料６　三部合唱を事前収録する３年生有志

カ「校外学習で学習用端末を活用しよう
～班行動報告用ムービー制作～」大作戦の取組
※生徒会（学級委員会）、社会科、国語科と連携
（話合い活動、合意形成、意思決定、発表）

資料７　生徒が活動している様子

キ「自宅で朝礼に参加してから登校しよう大作戦」の取組
～オンラインによる儀式的行事としての朝礼～
※生徒会（本部役員）、保護者
行事委員会との連携
（校長講話、生徒会長の挨拶、委員会からの連絡を聞き、ワークシートを記入・提出）

資料８　送信する学校と受信する生徒側の様子

ク「卒業オリジナルソングを創り卒業式で式歌として発表しよう大作戦」の取組
※生徒会（学級委員会）、保護者
国語科、音楽科、行事委員会との連携
（話合い活動、合意形成、意思決定、発表）

資料９　卒業ソング（彩いろどる）を事前収録する卒業生

４　研究の内容

「学級・学年・学校への所属感、連帯感につなげる学校行事」
～１人１台の学習者用端末を活用した振り返り動画づくりを通して～

※生徒会（学級委員会）、全教育活動（話合い活動、合意形成、意思決定、発表）

（１）本研究の年間計画について

月	日	内　　容
4	5 １８	・今年度の研究実践についてその方向性を確認（職員会議） ・たちばなマインド証の発行とその役割について（保護者地域への発信） ・朝礼にて今年度の新たな取組の周知（全校生徒に発信） 「学級目標の達成に向けた振り返り動画を創ろう大作戦」について
5	１８ 随時	・特別活動の理解「学級活動、生徒会活動、学校行事」（校内研修） ・各教員による個人研究シートの作成（校務 PC 内） ・各学級で学級目標達成に向けた必要な望ましい行動の仕方など話合い活動を充実（学級活動、生徒会活動、学校行事にて）
	２７	・全校生徒への意識調査（forms にて実施） ※取組前の意識を調査し、その変容を確認（随時）
6	随時	・各学級、学年における教育活動の中で「たちばなマインド」をキーワードに教育活動を展開し、小さな取組や実践を発信させ、報告を促す。 ※カードのグレードアップ・記録はたちばなマインド推進委員会がデータ管理
	随時	・学習者用端末を活用した動画や写真収集活動とともに学級内の各班で２分程度の振返り動画を作成 ※互いのよさの発見・伸長→自己肯定感につなげる
7	１４	・学級活動 各班で制作した動画の発表会を実施する ★講師による授業観察・指導助言
9 ～	随時	・学級活動における編集動画を随時更新しながら振返り動画編集を通して一人一人のよさの発見と自己肯定感の醸成に結びつける活動を展開
11	５	【全学級の授業公開】学級活動の中で振り返りをする取組 ※全日本中学校特別活動研究会・東京大会にて
３学期 2/13(月)	各学級で１学期から継続してきた取組「学級目標の達成に向けた動画」を実践発表会の中で披露する。 ※研究を通して生徒の意識がどう変容したかの検証結果を報告する。	

【資料１０】　全校生徒に配布した今年度の取組説明資料

令和４年度たちばなマインドの発揮

令和４年５月

『学級目標達成に向けた振り返り動画』を創ろう大作戦

YouTuber になった感覚で！！

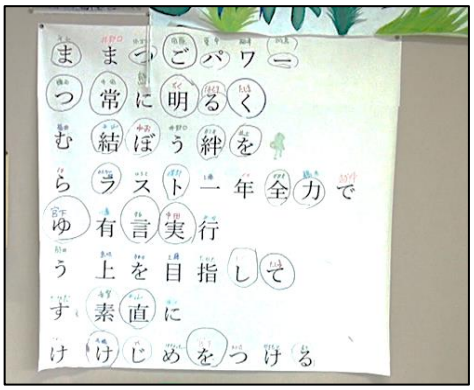
コロナ禍での新しい学校生活が始まって３年目となりました。これまでも新しい取組を実践してきた松五生。そこで今年度は全学級で新しい挑戦をします。

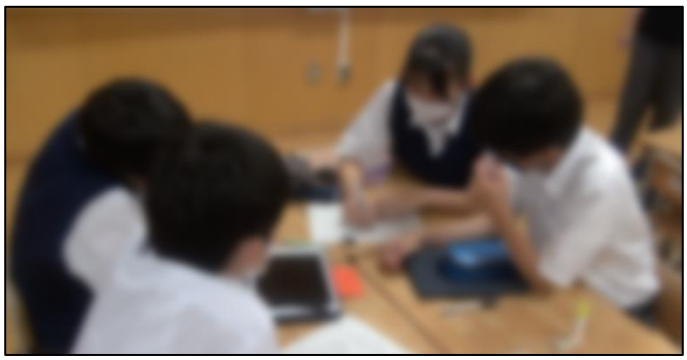
題して『学級目標他制に向けた振り返り動画をつくろう大作戦』です。今年度一緒に過ごす仲間との１年間を「学級目標」に照らし合わせて、その都度立ち止まり、記録に残した動画を視聴しながら、振り返りを図っていきます。振り返り方法は iPad アプリの iMovie で行い、反省や気づき、改善点をテロップとして挿入し、その時のイメージに合う曲をＢＧＭとして活用したり、ナレーション（音声）を入れます。どんなワード？どんなＢＧＭ？どんな加工フィルタを使うかなども話合い活動を通して折り合いをつけ、作品として完成・発表します。

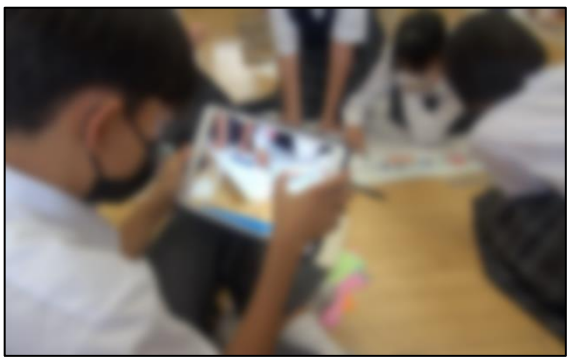
各班で作成した動画をクラスとして１つにまとめ、学級作品として仕上げます。

イメージとしては学級目標達成に向けた１年間のドキュメント映画をつくる感じです。1 学期末、2 学期末、3 学期と修正しながら完成につなげます。11/5 の学級活動で話合いによる編集作業の様子を全日本中学校特別活動研究東京大会の研究授業として発表します。

世界でただ一つの学級ドキュメント映画は、学校行事や様々な行事で活用できたらすばらしいですね。







（２）本校の生徒および教職員の意識

①教職員の特別活動についての理解

教職員は大学等で「特別活動」の専門的な知識を得ずして教職に就いていることが少なくない。当然のことながら「特別活動」には教科書がなく、先輩教員からの指導技術の継承が円滑に行われなかったり、「特別活動」の教育的意義が十分に理解されなかったりするなど、「特別活動」への指導が効果的に行われていないことが散見される。

本校では、年度当初に「特別活動」への理解を深めるために校内研修や職員会議が設定され、本研究を進めるにあたっての方向性が確認された。特別活動の内容が「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」であることを知らない教職員や部活動が特別活動であると認識している教職員も少なくなかった。東京都教育研究員や教師道場、校外での研修活動を実践している教職員は、概ね理解をしていることがわかる。

校内研修で教職員への課題として提示されたワークシートを一部ご紹介する。

＜A 教諭のワークシート＞

担任として、副担任として何をどのように準備していくのか

～コロナ禍での新しい教育活動の系統的・計画的な実践～

「たちばなマインド」をキーワードに教科・領域の垣根を越えた教育活動を展開

その１　生徒たちが合意形成・意思決定をした学級目標（学年目標）の設定

学級委員司会による学級討議を経た、「クラス目標」「2組三箇条」の作成

その２　特別活動を柱とした新たな教育活動の創造と目指す生徒像

学級活動として

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
- ア　学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ　学級内の組織づくりや役割の自覚
- ウ　学校における多様な集団の生活の向上

具体的な活動とその工夫
- ア.　学級目標の適切な設定
- イ.　生徒自治を目指した仕事の分担
- ウ.　「互いのよさ」を認め合う道徳の指導

(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- ア　自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成
- イ　男女相互の理解と協力
- ウ　思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応
- エ　心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- オ　食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

具体的な活動とその工夫
- エ.「決まりを守れば自由が得られる」旨の指導
- オ. 年間を通した給食献立の能力向上

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
- ア　社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用
- イ　社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成
- ウ　主体的な進路の選択と将来設計

具体的な活動とその工夫
- ア.　学級文庫の利用を促進
- イ.　ウ. 道徳において、「選択と責任」に重点を置いた指導

その活動によってどのような生徒の変容を期待しているのか（目指す生徒像は）
- ・「周りに流されず、自分のことは自分で決める」「学級を作るのは自分達次第」といった意識のある生徒
- ・自分の気持ちや考えを相手に伝えるためには、会話と論理性が不可欠という認識の自覚がある生徒

生徒会活動として

(1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営
(2) 学校行事への協力
(3) ボランティア活動などの社会参画

具体的な活動とその工夫
「生徒自治」を目指し、生徒会の提案を支え、全校生徒へのアピールをサポートする。

その活動によってどのような生徒の変容を期待しているのか（目指す生徒像は）
「自分たちが学校を作り上げている」という実感が得られている生徒。

学校行事として

(1) 儀式的行事　(2) 文化的行事
(3) 健康安全・体育的行事　(4) 旅行・集団宿泊的行事
(5) 勤労生産・奉仕的行事

具体的な活動とその工夫
各行事の度に、たちばなマインドへの投函を促し、生徒の自発的取り組みを促す。

その活動によってどのような生徒の変容を期待しているのか（目指す生徒像は）
たちばなマインドのために、自らの役割分担を超えて積極的に行事にかかわる生徒。

＜B 教諭のワークシート＞

担任として、副担任として何をどのように準備していくのか

～コロナ禍での新しい教育活動の系統的・計画的な実践～

「たちばなマインド」をキーワードに教科・領域の垣根を越えた教育活動を展開

その１　生徒たちが合意形成・意思決定をした学級目標（学年目標）の設定

学級委員司会による学級討議を経た、「クラス目標」「2組三箇条」の作成

その２　特別活動を柱とした新たな教育活動の創造と目指す生徒像

学級活動として

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
- ア　学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ　学級内の組織づくりや役割の自覚
- ウ　学校における多様な集団の生活の向上

具体的な活動とその工夫
- ア.　学級目標の適切な設定
- イ.　生徒自治を目指した仕事の分担
- ウ.　「五心のよさ」を認め合う道徳の指導

(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- ア　自他の個性の理解と尊重，よりよい人間関係の形成
- イ　男女相互の理解と協力
- ウ　思春期の不安や悩みの解決，性的な発達への対応
- エ　心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- オ　食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

具体的な活動とその工夫
- エ.　「決まりを守れば自由が得られる」旨の指導
- オ.　年間を通した給食配膳の能力向上

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
- ア　社会生活，職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用
- イ　社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成
- ウ　主体的な進路の選択と将来設計

具体的な活動とその工夫
- ア.　学級文庫の利用を促進
- イ.　ウ. 道徳において、「選択と責任」に重点を置いた指導

その活動によってどのような生徒の変容を期待しているのか（目指す生徒像は）
- ・「周りに流されず、自分のことは自分で決める」「学級を作るのは自分達次第」といった意識のある生徒
- ・自分の気持ちや考えを相手に伝えるためには、会話と論理性が不可欠という認識の自覚がある生徒

生徒会活動として

(1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営
(2) 学校行事への協力
(3) ボランティア活動などの社会参画

具体的な活動とその工夫
「生徒自治」を目指し、生徒会の提案を支え、全校生徒へのアピールをサポートする。

その活動によってどのような生徒の変容を期待しているのか（目指す生徒像は）
「自分たちが学校を作り上げている」という実感が得られている生徒。

学校行事として

(1) 儀式的行事　(2) 文化的行事
(3) 健康安全・体育的行事　(4) 旅行・集団宿泊的行事
(5) 勤労生産・奉仕的行事

具体的な活動とその工夫
各行事の度に、たちばなマインドへの投函を促し、生徒の自発的取り組みを促す。

その活動によってどのような生徒の変容を期待しているのか（目指す生徒像は）
たちばなマインドのために、自らの役割分担を超えて積極的に行事にかかわる生徒。

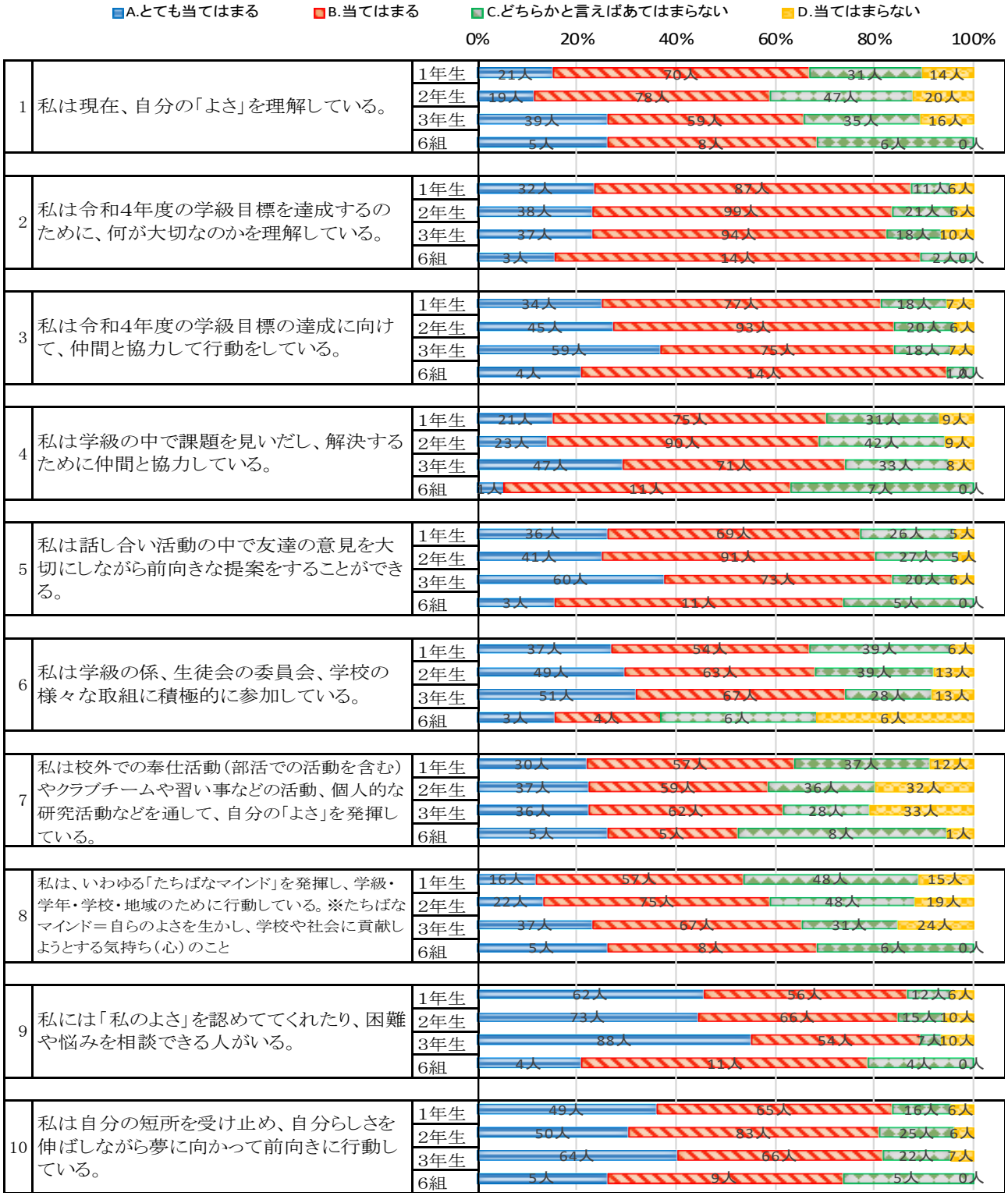
これまで学級活動の柱となる「学級目標」を意図的、計画的、組織的に教育活動に生かそうとしている学級担任が少なく、学校教育の要としての学級活動をさらに充実させる必要性を感じることになった。

（３）生徒の意識＜事前＞について（現状把握アンケート調査５月実施）

一学期の始業式において校長から本研究の取組について説明があった。前年度まで様々な取組を実践してきていたので生徒には素直に受け入れられている雰囲気があった。

具体的な活動を始める前の生徒の意識を把握するためにアンケート調査結果を紹介する。開始前ではあるが本校生徒の肯定的意識はかなり高いことがわかる。

学級目標に対する生徒の意識調査（5月実施）　【生徒483名の回答　在籍522名】
（「LOOK　BACK～次の成長に繋げるために～」 実施前のアンケートより



（４）学級活動で活用したワークシート

所属　　/ 年　　組　　番　　氏名

今年度一緒に過ごす仲間との１年間を「学級目標」に照らし合わせて、振り返った時、**目標が達成されたと判断できる理想の行動を記入**してみよう。

【１日の学校生活（学級活動）で理想の姿・行動は】

時間帯別の分類	理想の姿・行動 ※具体的な場面を記入する
１登校時間	◦通る人にあいさつをする。◦教室に入るときにあいさつをする。 ◦全員がちこくせず、読書の時間までに準備を済ませ、着席している。
２朝読書の時間	◦静かに集中して本を読む。 ◦毎回終了時に読んだ本の考えや感想をもつようにする。
３朝の学活の時間	◦先生の話をよく聞きその日の予定を頭に入れておく。 ◦元気よくおはようございます！
４各教科授業の時間	◦チャイムが始まる前に授業の準備をし、チャイムと同時に授業を始める。 ◦ひとりひとりの意見を尊重し、意見、否定質問等があれば、静かに手を挙げる。
５給食の時間	◦通常授業時は55分までにいただきます！ ◦どうしても食べられない時以外は残さず食べる。 ◦おかわりをひとりひとりがたくさんする。
６昼休みの時間	◦外へ行きたい人は外へ行くやることがある人や中にいたい人は中にいる。 ◦５校時目の授業の準備を済ませてから、外へ行く。
７帰り学活の時間	◦元気よくさようなら！ ◦明日の予定をよく聞き、必要なことはスクログに書く。
８そうじの時間	◦その日の係担当を始めにしっかり決め、最後まで責任をもってそうじをする。 ◦ひとりひとり担当に差が出ないように決める。

注意）バカにしたり、汚らしい、または失礼に思われるような表現はやめましょう。

【生徒会活動に参加するときの理想の姿・行動は】

時間帯別の分類	理想の姿・行動 ※具体的な場面を記入する
9 学級内の係活動時の理想の姿・行動	・ひとり ひとりが係に しっかり責任をもち、クラスがここちよい場になるように行う。
10 各委員会活動時の理想の姿・行動	・学校のためになることに責任をもって、各仕事を行う。 ・自分の意見をしっかりもつ。
11 生徒会主催貢献活動時の理想の姿・行動	・自分でもできると思ったことに参加する。 ・多くの意見を出す。

【学校行事に参加するときの理想の姿・行動は】

時間帯別の分類	理想の姿・行動 ※具体的な場面を記入する
12 入学式・卒業式等の儀式的行事に参加する時の理想の姿・行動	・始めのあいさつをする。 ・礼儀正しく 正装で参加する。
13 文化祭、合唱コン等文化的行事に取り組む理想の姿・行動	・練習や準備に力を入れる。 ・本番に自信をもって取り組む。 ・自分のもつイメージで取り組む。
14 運動会等、健康安全体育的行事に取り組む理想の姿・行動	・安全にけがに気を付けて行う。 ・一人一人が協力し合って参加する。
15 林間学校・修学旅行旅行・集団宿泊的行事参加時の理想の姿・行動	・礼儀正しく 会う人 すれちがう人にあいさつをする。 ・先生の話 指示を必ずしっかりと聞く。
16 職場体験・職場実習等、勤労生産・奉仕的行事参加する理想の姿・行動	・体験等は指導、指示していただく方の話をしっかりと聞く。
17 たちばなマインド発揮への理想の姿・行動	・少しでも自分のため 周りのため 学校のためになる行いに取り組む。

注意）バカにしたり、汚らしい、または失礼に思われるような表現はやめましょう。

（５）事前の活動・本時の活動・事後の活動

学　級　活　動　指　導　案

令和４年１１月５日（水）第２校時
指導者［各学年担任］

①　議題名「学級目標の達成に向けた振り返り～LOOK BACK ～次の成長に繋げるために～」
〔学級活動内容（１）イ〕学級内の組織づくりや役割の自覚
※学校行事との関連を図った１年間の継続的な活動

※〔学校行事内容（２）文化的行事〕平素の学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりすること、との関連を図る。

②　議題について

ア　生徒の実態

学級活動や行事に対して意欲の高い生徒が多い。授業における話合い活動等でも積極的に意見を出し合うことができる。一方で、自己肯定感や自己有用感がもてない生徒が一部おり、動画製作活動では、一生懸命取り組む生徒との温度差が予想される。これまでは教師から問題提起することが多かったが、この題材を通して、よりよい人間関係や学校生活を送るために生徒同士が意見や考えを伝え合い、当事者意識をもって課題解決する力を育んでいきたい。

イ　議題設定の理由

学校生活に満足している生徒が多いが、学級内で他者から認められる経験が少ないと感じる生徒も少なくない。そうした生徒を減らすために、日々の学級活動を通して互いに認め合い、褒め合う活動を取り入れていく。また、リーダーの気持ち、動画撮影者、編集者などの気持ち、目立つことが苦手だけど頑張っている生徒の気持ち等、様々な立場の生徒の気持ちを想像し意見を共有させることで、他者を理解し自分の役割を認識する機会を多くもちたい。

自分たちで学級目標達成に向けた振り返り動画を作り上げていることを自覚させ、撮影・編集の過程で友達や自分の頑張りを認め合える関係の育成をねらい、本議題を設定した。

③　指導のねらい

○話合い活動において、個人の意見を学級の意見にまとめていくことで、学級の一員としての意識を高めさせ、学級に対する所属感や連帯感を深める。

○互いのよさを認め合い、協力して学級活動を実践する態度を育む。また、学校行事への参画意識へもつなげる。

④　評価基準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
○話合いや撮影作業、担当する係の活動・動画編集などを通し、よりよいクラスの関係づくりの方法を理解している。	○クラスの一員としての自覚をもち、友だちと協力しながら、よりよい作品をつくるために、考え、判断し、進んで実践することができる。	○目標やその意義について、また係分担などに関心を持ち、学級目標達成に向けて、友だちと協力して意欲的に取り組もうとしている。

⑤　展開の過程と評価計画

	活動内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
事前	①学級目標決め （学級活動） ②動画づくりを通しての振り返り方を理解する （学級活動） ③役割決め （学級活動）	○学級や個人が達成感や満足感を味わえるような目標を立てさせる。 ○目指すべき学級とはどのようなものなのか目指すべき自分たちの姿をワークシートに文章で表現し、それを達成するために、個人や学級で何が必要か考えさせる。 ○プレゼン担当（司会）、音楽担当、テロップの言葉担当、監修・監督担当を決め、「使いたい動画」「映像にあった曲」「説明するテロップを考えさせ、自分たちのオリジナル動画であるという意識をもたせる。	【思考・判断・表現】 ○クラスの一員としての自覚をもち、よりよいクラスをつくるための方法や目標を考えることができる。[話合い] 【主体的態度】 ○活動に対して、自主的に自己の考えをまとめている。 ［観察・ワークシート］ 【主体的態度】 ○活動に対して、自主的に自己の考えをまとめている。 ［観察・ワークシート］
	④素材収集 撮影 ⑤他の班の情報も共有する ⑥編集作業	○学級活動やその他の時間の中で、相互にアドバイスをさせる。その際、必ずよい提案または工夫点を挙げさせる。 ○他班や他学級の取組も参考にしながら、クラスのよさを認め合わせるとともに、感想やアドバイスを伝えて、以後の活動に生かさせる。 ○これまでの取組を想起させ、生徒の活動意欲が高まるよう助言する。	【思考・判断・表現】 ○合唱練習などにおいて、自分の考えをまとめ、友だちの考えと比較したり、役割を分担したりして活動することができる。[発表・ワークシート] 【主体的態度】 活動に対して、学級の仲間と協力して、自主的・自律的に取り組もうとしている。[観察]
本時	◎上半期の振り返り（学級活動）	○記録素材の確認と選定しながら、活動そのものを振り返らせる。 ○2 分程度の編集動画と、事前に作成したワークシートを見ながら、学級目標達成に向けて達成できたこと不十分なことを振り返らせる。 ○個人の振り返りからグループ、全体へとつなげていく。 ○後半で現時点での各班の動画を学級内でプレゼンテーションさせ、今後の学校生活にどう生かしていくかを考えさせる。	【思考・判断・表現】 自分自身の活動を振り返るとともに、他の考え方や価値観を認め合うことができる。 【知識・技能】 話合いや編集作業、各係の活活動を通して、よりよいクラスの雰囲気つくりの方法を理解することができる。

	活動内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
事後	各グループで作成した動画を学級全体の作品に仕上げる（１２分間程度）	○学級内で編集係を編成する。 ○学級文化の特色をアピールしつつ学級目標の達成に迫った振り返り動画になるような作品に仕上げる。	【思考・判断・表現】 集団決定に基づいた作品を評価し、自分たちの成長や努力に気付くことができる。

⑥　中間振り返り学級活動（９月時点）【現状を振り返った生徒のワークシートより】

学級目標を一日の学校生活や、そして生徒会活動や学校行事に照らし合わせた振り返り活動により、学級目標達成への意識をより高め、次の行動につなげる。

「LOOK　BACK　～次の成長につなげるために～」学級活動

振り返りワークシート（９月）

＿＿年＿＿組＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿

我がクラスの学級目標　記入欄　※しっかり書くこと！！確認してください。

豊かな個性・海のような広い心・進んであいさつ・けじめをしっかりと

１学期に確認した「学級目標」と目標達成に向けた理想の姿（行動）を現時点で確認しよう。
※達成できている姿（行動）はありましたか？　まだ不十分な姿（行動）はどういうところですか。まとめてみましょう。

【１日の学校生活（主に学級を中心とした生活）で理想の姿・行動】

１．登校時　２．朝読書の時間　３．朝学活の時間　４．各授業の時間
５．給食の時間　６．昼休みの時間　７．帰り学活の時間　８．そうじの時間

分類	達成できている姿（行動）	まだ不十分な姿（行動）
登校時	◦朝決まった時刻に登校できてる所。	◦右測に歩いていない時がある。
朝読書の時間	◦読書に集中できてる所。	◦たまに本で遊んでいる時がある。
朝学活の時間	◦先生の話をちゃんと聞いてる所。	◦別の事をやりながら、聞いている時がある。
各授業の時間	◦先生の説明をしっかりと聞いている所。	◦ほんのたま～～に、ねてしまった時がある。
給食の時間	◦残さず食べれている所。	◦きらいな食べ物を残してしまった時がある。
昼休みの時間	◦次の授業の準備をして休みに入ってる所。	◦走り回ってしまった時がある。
帰り学活の時間	◦先生の大事な話をちゃんと聞いてる所。	◦帰りのまたくをしながら聞いてる時がある。
そうじの時間	◦しっかりとサボらず、そうじをしてる所。	◦休けいが長かったりした時がある。
下校時	◦ちゃんとまっすぐ家に帰れてる所。	◦ちょう遊びながら帰って行く時がある。

一つ付け足し

【生徒会活動に参加するときの理想の姿・行動】

９．学級内の係活動時　10．各委員会活動時　11．生徒会主催貢献活動時

分類	達成できている姿（行動）	まだ不十分な姿（行動）
学級内の係活動時	◦聞かなきゃいけない所はしっかりと聞き、後ろの黒板に忘れず書けてる所。	◦シャーペンを使う時に、しんを入れ忘れて持ってきた事がある。
各委員会活動時	◦ちゃんと放送室で放送できてる所 ◦一命けん命、がんばったこと!!!!	◦時間におくれてしまった時がある。 ◦何て書いてあるか分からなかった時がある。
生徒会主催貢献活動時	◦生徒会へ質問の手紙をわたせた所。	◦これと言ってはないが、あいさつが小さくなってしまった所。

【学校行事に参加するときの理想の姿・行動は】

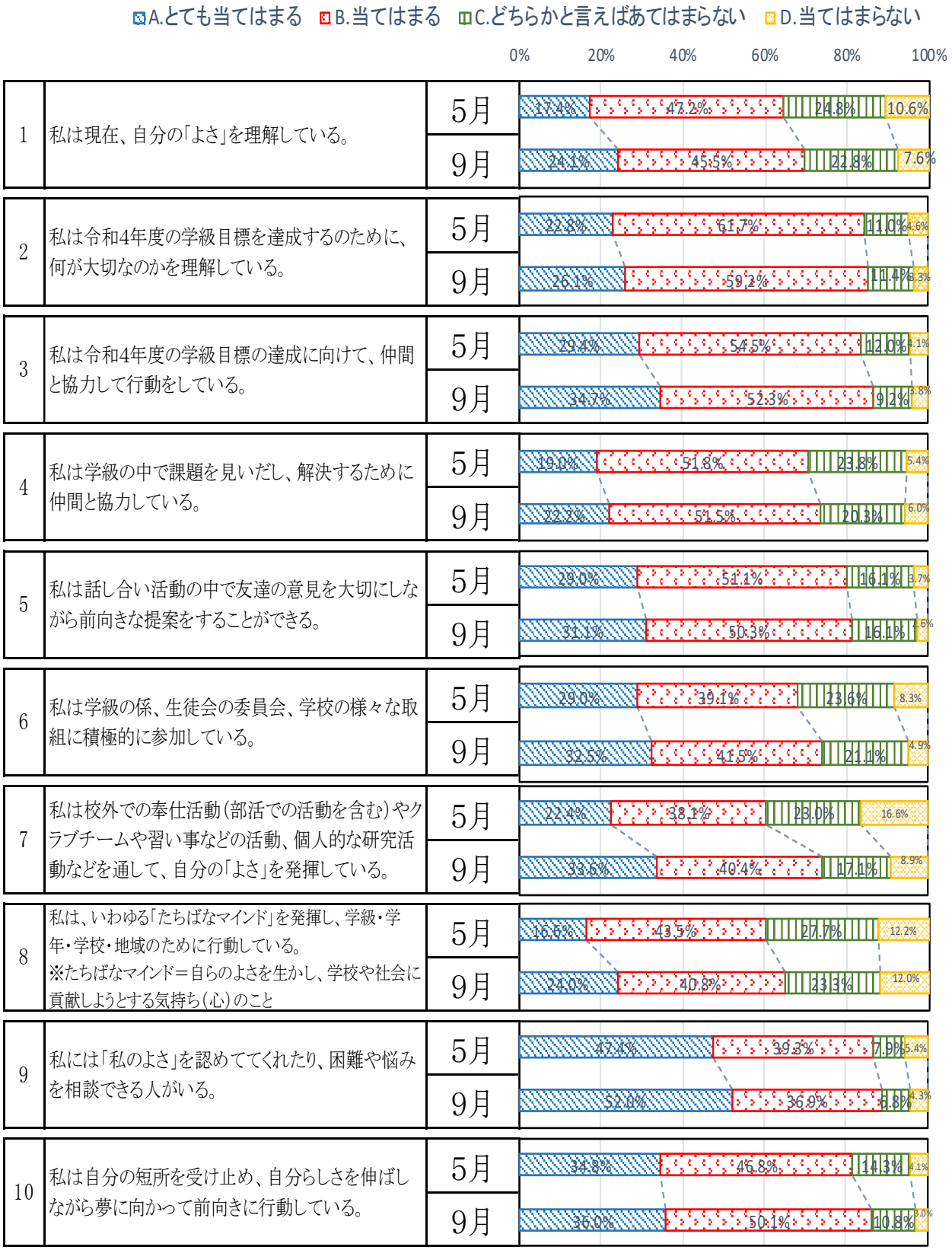
12．朝礼・入学式・卒業式等の儀式的行事　13．文化祭、合唱コン等文化的行事　14．運動会等、健康安全体育的行事
15．林間学校・修学旅行等集団宿泊的行事　16．職場体験・職場実習等、勤労生産・奉仕的行事

分類	達成できている姿（行動）	まだ不十分な姿（行動）
儀式的行事	◦しせいの良いたいせいで聞けてる所。	◦ねむくてふざけてしまう所。
文化的行事	◦全力でがんばった所。（練習）	◦と中、あきらめな感じが出てしまった所。
体育的行事	◦皆と協力できた所。	◦放送の時に、あまり活ぜんできなかった所。
宿泊的行事	◦まだやってないけど、楽しみたい！	◦ちゃんと班活動することかな！
職場体験	◦自分のやりたい事にまっすぐ行こう！	◦一度決めた事はやり通す！

注意）バカにしたり、汚らしい、または失礼に思われるような表現はやめましょう。

5　数字で見る生徒の変容

学級目標に対する生徒の意識調査（5月と9月の比較）　【回答率95%　在籍522名】
（「LOOK　BACK～次の成長に繋げるために～」 実施前＆実施中のアンケートより



６　研究の成果と課題

（１）特別活動の特質を踏まえた資質・能力の育成

～話合い活動、合意形成、意思決定、発表までの流れへの主体的な取組～

①成果

特別活動は「集団活動」と「実践的な活動」を特質し、目標を達成するための方法や手段を考え、共通の目標を目指して協力して実践していくものである。これまで年度当初に学級目標を決定するプロセスを重要視してこなかったが、今年度はアンケート調査による実態把握と共に教職員も校内研修をしたことによって、学級目標の意義やその大切さの理解を深めることができた。また、学級目標の達成に向けた理想的な行動（姿）を学習者用端末活用による話合い活動、合意形成、意思決定につなげることができた。

本校の目指すべき学校像に掲げる「互いのよさを認め合い誰もが輝ける学校」の具現化として何気なく流れていく日々の学校生活を仲間と共に掘り下げることが特別活動で身に付けたい３つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」につながる取組となった。

②課題

前述の通り、特別活動が目指す資質・能力の育成は、「集団活動」と「実践的な活動」が重要な役割を果たしており、全教育活動を通じて行われている学級経営に寄与する。つまり担任の指導力が大きな影響を与えることも事実である。学級担任が学校経営方針や学級の実態を踏まえて、意図的計画的に指導をしているか否かがとても大切であり、校内研修のさらなる充実、若手の人材育成が課題として挙げられる。

（２）学級活動「LOOK　BACK～次の成長につなげるために～」の取組と学校行事との関連

～学級活動を学校行事と関連させ、生徒の意欲を向上させた工夫～

①成果

学級活動「LOOK　BACK～次の成長につなげるために～」のタイトルは、当初「学級プロモーションビデオを創ろう大作戦」という題材でスタートを切ったが、学級目標の達成に向けた振り返り動画づくりという取組には、具体的な取組イメージがつかめないという生徒からの声があった。そこで、全校行事として改めてタイトルを一般公募することになった。全校生徒、保護者、教職員、地域にホームページから一般募集をしたところ多数の投稿があり、以下の６作品がノミネートされ、最優秀賞が採用された。

最優秀賞	２年４組	S.T	さん	「LOOK BACK ～次の成長につげるために～」
優秀賞	３年３組	K.S	さん	「MCGs（Movies of Class　Goals）
優秀賞	２年１組	T.H	さん	「奇跡の軌跡を追跡せよ～foot　prints～」
優秀賞	保護者	Y.T	様	「咲かせてみせよう松五 WAY35」
優秀賞	３年３組	W.Y	さん	「僕らの一歩」
優秀賞	１年１組	S.H	さん	「松五の種」

各学級の目標（＝学級文化）を全校で共有する機会として新しい視点で生まれた文化的行事である。学級活動で活用したワークシートには、学級目標を意識して生活できている場面や課題が記載されている。また９月の２回目の意識調査でも学級目標を意識して学校生活を送っている割合が増加した。

本研究の最終的なまとめは、令和５年２月１３日（月）に江戸川区教育課題実践推進

校として発表を予定しているため、現時点では記述できないが、昨年度までの実践成果を踏まえ、よい報告ができると予想している。

②課題

生徒が発展的に新しいものを生み出していくことができるようには、教師と生徒及び生徒相互の理解や新たな人間関係の構築、自己の再発見、後輩に引き継ぎたい学校固有の伝統や行事などを丁寧に体験させていくことが必要である。そのための指導者側の心のゆとりがとても大切であり、働き方改革のさらなる推進が必要である。また、本研究では１人１台端末を活用した学級活動を学校行事に向けた取り組みとして年間を通しての継続活動であったため、記録媒体の容量、個人情報の扱い、事前・事後活動の時間など様々な課題が浮かび上がった。

【資料 A】学級活動「LOOK　BACK～次の成長につなげるために～」の別タイトル募集案内

（３）学級・学年・学校への所属感、連帯感の深化と成長

①成果

継続的な取組により、全教育活動において１人１台の学習者用端末を活用して学校生活の様子が記録されるようになっていった。撮影の視点として仲間のよさや個性、そして特色ある自分たちの学級（文化）よさを意識しながら、そのイメージを動画作品に落とし込もうとする生徒が見られるようになっていった。諸事情があり学校に登校できていない仲間の存在を気にする生徒もみられ、作品にどう反映するかといった話合いをする生徒もいた。さらに別の班の活動している様子からの刺激や他の学級からの情報を得ながら、自分たちの学級への所属感や仲間との連帯感がさらに高まっていることが、９月のアンケート調査結果からもわかった。

②課題

強い連帯感や所属感を求めるあまりに、目標達成にはブレーキとなってしまう仲間の存在、そして自分がブレーキになっているのではないかという感覚を持ってしまう生徒が孤立してしまうことを配慮する必要がある。

（４）よりよい学級や学校文化の創造

～教科・領域の垣根を越えた新しい教育活動「大作戦シリーズ」～

①成果

特色ある学校文化づくりとしての「大作戦シリーズ」により、さまざまな教育活動において、これまでにない新しい取組（学級・学年・生徒会・学校行事の中で）を実践することができた。それは一貫して特別活動の三つの柱である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を意図した教育活動であるが、事前の活動や事後の活動を丁寧に扱い、実りあるものとなった。生徒からは「これが松五魂ですね。」「松五の伝統ってすばらしいですね」といった声を多く聞くことができた。

学級活動と学校行事と強く結びつけた取組は、生徒や教員の取組への意欲向上につながるたけでなく、達成感や満足感を得ることができ、事後アンケートでの満足度は大変高かった。

②課題

カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、各教科や道徳、総合的な学習の時間等すべての教育活動と結びつけた「社会に開かれた教育課程」が求められている。しかし、新しい活動の実施には、削減する活動も考えなくてはならない。両者のバランスをどのように調整していくかが今後の課題である。

７　研究のまとめ

新型コロナウイルス感染症対策として教育活動の制限、同時に国の GIGA スクール構想の開始という中で現学習指導要領が全面実施となった。今回の改訂では「よりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育成する」という方向性が示され、新しい教育観や指導方法への転換が急務となった。組織全体としてどう対応していくのかが大きな課題であったが、学校だけでなく、生徒や保護者、そして地域全体が学校教育を柱として支える各活動や学校行事の重要性を再確認し、「よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動」の具現化に多大な協力をいただき、成果を残すことができた。今後も特別活動の継続的な実践を通して、さらに特色ある活動へと深化させ、一人一人の自己実現につなげていきたい。

資　料

★全日本中学校特別活動研究大会の歩み

回	開催年月日	開催地	「主　題」 （会　場）	会　長 実行委員長
第１回	昭和47. 6.8（木） 9（金）	東京都 （板橋区）	「望ましい人間関係をめざして、新しい特別活動をどのように進めたらよいか」 ～その計画・運営・指導の在り方を研究する。～ （板橋区立区民会館・産業文化会館、板橋区立上板橋第一中学校　他５会場）	須田　重雄 須田　重雄
第２回	昭和48.11.8（木） 9（金）	広島県 （福山市）	「ひとりひとりをたいせつにする特別活動はいかにあるべきか 」～特にクラブ活動をとりまく課題を明らかにし、その計画・運営・指導のあり方をさぐる～ （福山市民会館、福山市立城北中学校、他２会場）	須田　重雄 近藤　通珍
第３回	昭和49.6.6（木） 7（金）	東京都 （中野区）	「これからの特別活動の充実をどのように進めるか」 （中野区立公会堂、中野区立中央中学校）	菊池　四郎 菊池　四郎
第４回	昭和50.6.20（金） 21（土）	東京都 （目黒区）	「生きがいを育てる特別活動の指導をどのように進めるか」 （東京都立教育研究所）	菊池　四郎 菊池　四郎
第５回	昭和51.6.24（木） 25（金）	埼玉県 （浦和市）	「これからの学校教育の中学校における特別活動」 （浦和市民会館、桶川中学校、他２会場）	菊池　四郎 加藤　雅信
第６回	昭和52.6.24（金） 25（土）	岡山県 （岡山市）	「ゆとりある教育の中の特別活動」～教師と生徒のふれ合いを求めて～ （岡山市民文化ホール、中央公民館）	菊池　四郎 串田　吉雄
第７回	昭和53.6.2（金） 3（土）	茨城県 （下妻市）	「いきがいと充実感あふれる中学生を育てる特別活動」 （下妻市立下妻中学校）	菊池　四郎 広瀬　一徳
第８回	昭和54.8.3（金） 4（土）	香川県 （高松市）	「自ら考え正しく判断・行動できる生徒の育成をめざす特別活動」 （高松市民会館、他４会場）	岩亀　幸三郎 谷本　義男
第９回	昭和55.6.20（金） 21（土）	東京都 （中野区）	「新教育課程の趣旨を生かす特別活動」 （中野区立公会堂、東京都立教育研究所）	田代　拳 神戸　恭三郎
第10回	昭和56.8.7（金） 8（土）	兵庫県 （神戸市）	「ゆたかな人間性の育成を目ざす新しい特別活動」～ゆとりと充実の実践課題～ （神戸文化ホール、他８会場	田代　拳 河野　広雄
第11回	昭和57.8.6（金） 7（土）	千葉県 （千葉市）	「ゆたかな人間性の育成をめざす特別活動」～ゆとりと充実の創造と実践～ （千葉県教育会館、他５会場）	田代　拳 菅崎　栄
第12回	昭和58.9.29（木） 30（金）	福島県 （福島市）	「生徒の自主的・自治的活動を定着させる特別活動」 ～一人歩きのできる生徒の育成をめざして～ （福島市立福島第四中学校、大鳥中学校、吾妻中学校、福島市民センター）	田代　拳 橋谷田千代士
第13回	昭和59.8.9（木） 10（金）	静岡県 （静岡市）	「一人ひとりに充実感を生み出す特別活動」 （静岡市民文化会館、他５会場）	神戸　恭三郎 土屋　伊佐雄 加藤　清
第14回	昭和60.8.7（水） 8（木）	東京都 （渋谷区）	「生徒の自己教育力を高める特別活動」 （国立オリンピック記念青少年総合センター）	横尾　武成 両角　敏彦 原口　盛次
第15回	昭和61.11.13（木） 14（金）	東京都 （中野区）	「生徒の学校生活を活性化する特別活動」 （中野文化センター、豊島区立高田中学校、中野区勤労福祉会館）	横尾　武成 原口　盛次
第16回	昭和62.8.7（金） 8（土）	千葉県 （千葉市）	「生徒の自主性を高める特別活動」 （千葉県教育会館、千葉県自治会館、公立学校共済組合青雲閣）	原口　盛次 細谷　竹松
第17回	昭和63.8.9（火） 10（水）	徳島県 （鳴門市）	「生徒の創造を生かし、一人ひとりに充実感をもたせる特別活動」 （鳴門市文化会館、老人福祉センター、青少年育成センター、地場産業センター）	原口　盛次 廣岡　政吉
第18回	平成元.8.8（火） 9（水）	栃木県 （藤原町）	「一人一人を伸ばす特別活動」～より望ましい集団活動を通して～ （鬼怒川温泉あさやホテル）	槇　常三 武井　岩夫
第19回	平成2.10.18（木） 19（金）	新潟県 （両津市）	「主体的な集団活動をうながす特別活動のあり方」 （佐渡島開発総合センター、両津市立東中学校、南中学校）	槇　常三 渡辺　喜信
第20回	平成3.8.8（木） 9（金）	群馬県 （伊香保町）	「望ましい集団活動を通して、一人一人の生き方を育てる特別活動」 （伊香保温泉ホテル天坊）	鶴巻　武 松下　熙雄
第21回	平成4.10.30（木） 31（金）	埼玉県 （北本市）	「豊かな人間性を育む特別活動」～多様な体験活動の実践を通して～ （北本市文化センター、北本市立北本中学校）	鶴巻　武 布目　雅之
第22回	平成5.8.6（金） 7（土）	鹿児島県 （鹿児島市）	「望ましい集団活動を通して、主体的に生きる力を培う特別活動」 （鹿児島市民文化ホール、鹿児島サンロイヤルホテル）	山田　忠行 竹原　宏
第23回	平成6.8.18（木） 19（金）	和歌山県 （和歌山市）	「たくましい実践力を育てる特別活動」～人間としての生き方を求めて～ （和歌山県民文化会館、紀の国会館）	山田　忠行 久保　陽右
第24回	平成7.8.7（月） 8（火）	東京都 （中野区）	「たくましく生きる意欲を育てる特別活動」 （なかのＺＥＲＯ）	山田　忠行 小松　博則
第25回	平成8.8.2（金） 3（土）	青森県 （弘前市）	「豊かな心を持ち、たくましく生きる力を育てる特別活動」 （弘前市民会館、弘前文化センター）	小松　博則 鈴木　弘
第26回	平成9.8.7（木） 8（金）	神奈川県 （横浜市）	「豊かな人間性を培い、主体的に生きる力を育てる特別活動」 （横浜市立横浜商業高等学校、パシフィコ横浜）	平松　隆 名塚　義明
第27回	平成10.8.7（金） 8（土）	広島県 （広島市）	「豊かな人間性をつちかい、生きる力をはぐくむ特別活動」 （広島県民文化センター、鯉城会館、広島国際会議場）	平松　隆 澤村　晴視
第28回	平成11.8.19（木） 20（金）	栃木県 （藤原町）	「生きる力をはぐくむ　あらたな特別活動を求めて」 （鬼怒川温泉グリーンパレス）	佐藤　真人 須藤　稔
第29回	平成12.8.3（木） 4（金）	熊本県 （熊本市）	「２１世紀を生きる力を育てる特別活動」 （メルパルクＫＵＭＡＭＯＴＯ）	佐藤　真人 坂井　豊水

回	開催年月日	開催地	「主　題」 （会　場）	会長 実行委員長
第30回	平成13.8.2（木） 3（金）	東京都 （中野区）	「２１世紀を拓く特別活動」　～共に考え、共に歩む～ （なかのＺＥＲＯ）	佐藤　真人 保積　芳美
第31回	平成14.8.7（水）	鹿児島県 （鹿児島市）	「豊かなかかわり合いを通して、共に生きる力を育てる特別活動」 （ホテルウエルビューかごしま）	保積　芳美 山下　雄平
第32回	平成15.7.30（木） 31（金）	愛媛県 （松山市）	「共生と創造を目指す特別活動の研究」 （松山市立子規記念博物館、にぎたつ会館、メルパルクＭＡＴＳＵＹＡＭＡ）	保積　芳美 芝　英徳
第33回	平成16.10.15（金） 16（土）	徳島県 （阿南市）	「望ましい集団活動を通して、生きる力を育てる特別活動」 （阿南中学校、阿南市文化会館）	保積　芳美 萩原　宏昭
第34回	平成17.8.3（木） 4（金）	東京都 （中野区）	「望ましい集団活動の活性化を通して、生きる力を育てる特別活動」 ～社会的な資質の育成を中心にして～ （中野区教育センター、中野区立中央中学校）	保積　芳美 加々美　肇
第35回	平成18.10.27（金） 28（土）	青森県 （弘前市）	「出会おう新しい自分、生きよう自分らしく」 ～豊かな心を持ち、たくましく生きる力を育てる特別活動～ （弘前市立東中学校、弘前市文化センター）	加々美　肇 山科　實
第36回	平成19.7.31（火）	東京都 （中野区）	「豊かな人間関係づくりを通して、生きる力を育む特別活動」 ～学校と家庭・地域を結ぶ特別活動～　（なかのＺＥＲＯ）	加々美　肇 坂井　晃
第37回	平成20.8.6（水）	群馬県 （前橋市）	「未来を拓く人間力を培う特別活動」 ～望ましい集団活動・豊かな人間関係づくりを通して～　（前橋テルサ）	加々美　肇 尾身　正治
第38回	平成21.10.16（金） 17（土）	東京都 （江東区）	「望ましい人間関係を形成する新たな特別活動の展開」 （江東区立深川第八中学校、江東区教育センター）	坂井　晃 美谷島　正義
第39回	平成22.10. 29（金）	青森県 （五所川原市）	「触れ合いの中で発見しよう　輝く自分　響き合う仲間」 ～新しい時代を切り拓く特別活動～　（五所川原市立五所川原第一中学校）	坂井　晃 永澤　正己
第40回	平成24.1.28（土）	東京都 （文京区）	「助け合い　励まし合う　仲間づくり」 ～望ましい人間関係の形成と集団や社会の一員としての自主的・実践的な態度の育成～ （東京都教職員研修センター）	佐々木辰彦(代行) 松本　康夫
第41回	平成24.12.1（土）	東京都 （文京区）	「認め合い　高め合う　仲間づくり」 ～社会の一員としての自主的・実践的な態度の育成～ （東京都教職員研修センター）	佐々木　辰彦 勝亦　章行
第42回	平成25.8.8（木）	大分県 （別府市）	「よりよき人間関係を築き、望ましい集団活動を通して生きる力をはぐくむ特別活動」 ～話合い活動の充実による自治能力の育成～　（立命館アジア太平洋大学）	勝亦　章行 児玉　徳信
第43回	平成26.10.30（木） 31（金）	愛媛県 （松山市）	「絆を深め、たくましく生きる力を育む特別活動の創造」 ～より良い生活や人間関係を築く集団活動の実践を通して～ （松山市立桑原中学校）	勝亦　章行 武田　峰紀
第44回	平成27.10.2（金） 3（土）	神奈川県 （横須賀市）	「自主的、実践的な態度と想像力を育む特別活動を目指して」 ～よりよい人間関係を育成する中で～ （ヨコスカベイサイドポケット産業交流プラザ・総合福祉会館）	松本　康夫 守谷　賢二
第45回	平成28.11.19（土）	東京都 （墨田区）	「認め合い　支え合い　高め合う　仲間づくり」 ～これからの社会を生き抜く資質・能力の育成を目指す特別活動～ （墨田区立本所中学校）	松本　康夫 長谷川　晋也
第46回	平成29.8.10（木）	佐賀県 （佐賀市）	「よりよい人間関係を築き、主体的に実践する力を育む特別活動の創造」 ～協働的な学びの基礎を形成する集団活動の実践活動を通して～ （グランデはがくれ）	長谷川　晋也 中野　義文 澤　成樹
第47回	平成30.11.10（土）	東京都 （練馬区）	「新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方」 ～様々な集団活動を通して自己有用感を高める指導法の工夫～ （練馬区立石神井東中学校）	上岡　祥邦 青木　由美子
第48回	令和元.11.16（土）	東京都 （狛江市）	「新学習指導要領実施への新たな特別活動の在り方」 ～集団や社会の形成者としての見方・考え方を育む指導法の工夫～ （狛江市立狛江第一中学校）	上岡　祥邦 青木　由美子
第49回	平成3.8.10（火）	鹿児島県 （オンライン）	「よりよい人間関係を形成し，集団や社会，自己の生活上の課題を主体的に解決することができる生徒の育成」	青木　由美子 田宮　弘宣
第50回	令和4.11.5（土）	東京都 （江戸川区）	「学校教育を柱として支える特別活動の創造」 ～よりよい未来の創り手の育成に向けた新たな特別活動～ （江戸川区立松江第五中学校）	荒巻　淳 滝沢　二三雄

全日本中学校特別活動研究会　会則

第１章　　総　則

第１条　本会は、全日本中学校特別活動研究会と称し、事務局は会長校内におく。

第２条　本会は、全国の特別活動研究者をもって組織し、特別活動に関する重要問題を取り上げて協議し、わが国中学校特別活動教育推進と発展に寄与することを目的とする。

第３条　本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

一　全日本中学校特別活動研究大会の開催

二　各都道府県における中学校特別活動研究協議会・研究会・講習会・座談会等の主催協力・連絡

三　各都道府県の中学校特別活動研究団体との交流・連絡

四　機関誌・機関新聞・紀要等の刊行

五　その他関係機関との連携及び必要な事業

第４条　本会の会員は次のものによって構成する。

一　全国の都道府県の特別活動研究会の会員

二　その他、本会の主旨に賛同する者

第２章　　役　員

第５条　本会は次の役員をおく。

一　会　　長　　１名　　二　副会長　　若干名　　三　事務局長　　１名

四　全国理事

第６条　会長は理事会で選出し、任期は９条によるものとする。

第７条　理事は、参加研究団体の中からの推薦により会員の者から選出する。

副会長及び事務局長は、理事の中からまたは理事の推薦により会長が委嘱する。

第８条　役員の職務は、次の通りとする。

一　会長は本会を代表し、会務を総括する。

二　副会長は、会長を補佐し会長事故ある時は、その職務を代行する。

三　事務局長は、事務局を組織し、常時の会務運営を担当する。

四　理事は、理事会を構成し本会の企画・運営のための原案作成及び会務の審議決定をする。

第９条　本会の役員の任期は一年として、再任をさまたげない。補欠によって就任した役員の任期は前任者の残留任期とする。

第 10 条　本会は、名誉会長・顧問・参与をおくことができる。名誉会長・顧問・参与は本会の重要な会議に出席して意見を述べることができる。

第3章　　執　行　機　関

第 11 条　本会の会務を統括し遂行するために事務局をおく。事務局には、事務局長のもとに、事務局員若干名をおく。

第 12 条　事務局には、次の部をおく。

一　庶務部　　二　会計部

各部には、部長・副部長ならびに部員若干名をおく。

第 13 条　各部の構成人員は、事務局員をもってこれに充て、会長が委嘱する。

第4章　　会　議

第 14 条　理事会は、毎年一回開催し、会の重要事項について報告・審議する。その他の会議は必要に応じて開くものとする。会議はすべて会長がこれを招集する。

第5章　　会　計

第 15 条　本会の会費は、次の収入をもってこれにあてる。

一　会費　　二　寄付金　　三　助成金　　四　その他の収入

会費は地区分担金費（都道府県年２０，０００円）とする。会費は、理事会の議決で決める。

第 16 条　本会は、特に必要ある場合臨時会費を徴収することができる。

第 17 条　本会の予算及び決算は、予算書及び決算書を作成し、理事会で報告、審議及び承認を得るものとする。

第 18 条　本会の年度は、４月１目に始まり、翌年の３月３１日に終わる。

付　　則

1　本会の会則の変更は、理事会の議決によるものとする。

2　本会の運営については、細則をもうけることができる。

3　本会の会則は昭和 47 年 6 月 8 日から施行するものとする。

昭和 48 年 11 月　8 日改正

昭和 58 年　9 月 29 日改正

平成 14 年　7 月 30 日改正

平成 25 年　8 月　7 日改正

令和４年度　全日本中学校特別活動研究会　全国理事名簿

令和４年９月１９日現在

会　長	荒巻　　淳	江戸川区立松江第五中学校	132-0024	東京都江戸川区一之江６－１８－１
副会長・事務局長	滝沢二三雄	品川区立鈴ケ森中学校	140-0013	東京都品川区南大井２-３-１４

都道府県	氏　名	学　校　名	〒番号	所　在　地
青森県	相馬　英明	弘前市立第二中学校	036-8367	青森県弘前市大字平岡町７２
岩手県	鈴木　美成	盛岡市立大宮中学校	020-0866	岩手県盛岡市本宮字大宮５－１
福島県	渡部　正晴	福島市立吾妻中学校	960-2261	福島県福島市庭坂字原田８番地
群馬県	結城　啓之	伊勢崎市立境西中学校	370-0126	群馬県伊勢崎市境下武士８７２-２
東京都	滝沢二三雄	品川区立鈴ケ森中学校	140-0013	東京都品川区南大井２-３-１４
神奈川県	杉山　達郎	川崎市立長沢中学校	215-0012	神奈川県川崎市麻生区東百合丘４-１２-１
石川県	中野　淳子	野々市市立富陽小学校	921-8834	石川県野々市市中林５－７０
福井県	竹野　　亨	福井市立美山中学校	910-2351	福井県福井市美山町９－14
岐阜県	山中　浩隆	関市立富岡小学校	501-3822	岐阜県関市市平賀５０６
滋賀県	楠本　茂樹	近江八幡市立八幡中学校	523-0851	滋賀県近江八幡市市井町３６番地
大阪府	廣瀬　　浩	東大阪市立枚岡東小学校	579-8023	大阪府東大阪市花町１２-２８
兵庫県	本田　健一	神戸市立有野中学校	651-1302	兵庫県神戸市北区藤原台中町５－２－１
奈良県	山口　幸夫	桜井市立大三輪中学校	633-0074	奈良県桜井市芝１４０１番地
和歌山県	西川　彰彦	和歌山市立明和中学校	641-0012	和歌山県和歌山市紀三井寺８３２－１
岡山県	松浦　敏之	岡山市立山南学園	704-8134	岡山県岡山市東区北幸田５０９－１
山口県	藤田　忠功	山口市立仁保中学校	753-0302	山口県山口市仁保中郷８４
島根県	大庭　匡史	益田市立美都中学校	698-0203	島根県益田市美都町都茂１９４７
鳥取県	松尾　直樹	米子市立後藤ケ丘中学校	683-0841	鳥取県米子市上後藤１丁目１番１号
香川県	久保田員生	三豊市観音寺市学校組合立三豊中学校	768-0101	香川県三豊市山本町辻８７６番地
徳島県	山田　　匠	徳島市立板野中学校	779-0105	徳島県板野郡板野町大寺字郡頭１１番地
愛媛県	苅山　俊樹	松山市立拓南中学校	790-0962	愛媛県松山市枝松５丁目４番３９号
福岡県	末永　　寿	直方市立直方第三中学校	822-0022	福岡県直方市大字知古９６０
佐賀県	猿本　英隆	鹿島市立鬼塚中学校	847-0002	佐賀県唐津市山本 1916 番
長崎県	郷原　正浩	佐世保市立祇園中学校	857-0801	佐世保市祇園町１４－１２
熊本県	上野　正直	熊本市立北部中学校	861-5521	熊本市北区鹿子木町１
大分県	福田　秀樹	大分市立稙田南（わさだみなみ）中学校	870-1143	大分県大分市田尻１２３－１
鹿児島県	田宮　弘宣	鹿児島市立星峯中学校	891-0102	鹿児島県鹿児島市星ケ峯４－１０－１
宮崎県	尾園　賢二	宮崎市立高岡中学校	880-2221	宮崎市高岡町内山２７００

第 50 回 全日本中学校特別活動研究会大会 実行委員会名簿

	運営役職	氏　名	勤　務　校	職　名	役割分担等
全国会長		荒巻　淳	江戸川区立松江第五中学校	校　長	全国理事会
実行委員長 兼事務局長		滝沢二三雄	品川区立鈴ケ森中学校	校　長	全国理事会
副実行委員長	総務部顧問	上岡　祥邦	足立区立第十二中学校	校　長	誘導・接遇
副実行委員長		荒木　忍	東村山市立東村山第二中学校	校　長	誘導・接遇
総務部	部　長	瀬戸　完一	葛飾区立小松中学校	副校長	
	副部長	植木　俊孝	小金井市立小金井南中学校	主任教諭	
		荒木　忍	東村山市立東村山第二中学校	校　長	
		原　奈都子	江戸川区立小松川第二中学校	主任教諭	
		吉田　義和	練馬区立開進第三中学校	主幹教諭	
		小野　貴史	足立区立第四中学校	主任教諭	
	顧　問	上岡　祥邦	足立区立第十二中学校	校　長	
会計部	部　長	藤本謙一郎	練馬区立大泉学園中学校	副校長	
	副部長	岩﨑　航太	小平市立小平第二中学校	主任教諭	
運営部	部　長	西本　静	江戸川区立松江第六中学校	教　諭	
	副部長	谷口　典夫	狛江市立狛江第一中学校	非常勤	
		岩﨑　航太	小平市立小平第二中学校	主任教諭	
		三枝　剛	江戸川区立南葛西中学校	主幹教諭	
		安藤　大	江戸川区立瑞江中学校	教　諭	
		田中　識啓	江戸川区立小岩第三中学校	主幹教諭	
		入澤亜矢子	足立区立千寿青葉中学校	教　諭	
研究部	部　長	吉川　滋之	東村山市立東村山第五中学校	指導教諭	
	副部長	大塚　隆弘	江東区立深川第一中学校	主幹教諭	
		鶴岡　友樹	足立区立加賀中学校	主任教諭	
		田村　秀紀	渋谷区立渋谷本町学園中学校	教　諭	
		五十嵐　拓	江戸川区立南葛西中学校	教　諭	
		井上　稚恵	杉並区立井荻中学校	教　諭	
		根本　千郷	葛飾区立小松中学校	教　諭	
編集部	部　長	藤本謙一郎	練馬区立大泉学園中学校	副校長	
	副部長	栗原　美絵	武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校	主任教諭	
		大橋　えり	葛飾区立常磐中学校	主任教諭	
		酒井　寛子	板橋区立志村第四中学校	教　諭	
		向井　一真	杉並区立泉南中学校	教　諭	
		横山　清貴	江戸川区立篠崎中学校	教　諭	
		真辺　草平	足立区立入谷南中学校	教　諭	
		高木　真実	足立区立第四中学校	教　諭	
監　事	会計監査	大熊　恵子	練馬区立田柄中学校	主幹教諭	
	会計監査	鈴木　啓之	江戸川区立松江第三中学校	副校長	
相談役		長谷川晋也	墨田区教育委員会		
		松本　康夫	東村山市教育委員会		
		勝亦　章行	練馬区教育委員会 就学相談員		
		佐々木辰彦	東村山市立東村山第三中学校		
当日の 運営補助		江戸川区立中学校教育研究会特別活動部員			
		江東区立中学校教育研究会特別活動部員			
		葛飾区立中学校教育研究会特別活動部員			